



CHAPTER 4

デスクトップ ビデオの管理



有効化

Cisco DMS のソフトウェア フィーチャ モジュールの購入とライセンス取得は別途行います。各機能の使用に必要なライセンスの購入とインストールが完了するまで、どのユーザも機能を使用できません。また、完了した後も特権レベルの低いユーザは機能を使用できません。機能ライセンスの概要とインストール方法については、「[Cisco DMS の機能とコンポーネントのライセンスの管理](#)」(P.2-3) を参照してください。ライセンスとユーザ権限によって制限されている機能にアクセスする方法については、「[DMS-Admin のユーザ ロールについて](#)」(P.2-9) を参照してください。購入できるソフトウェア フィーチャ モジュールを確認するには、<http://www.cisco.com/go/dms> を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [設定および配信の設定の管理](#) (P.4-1)
- [ユーザ アクセスの管理と権限設定](#) (P.4-7)
- [プログラム、ビデオ、ビデオ パーツ、およびラインナップの管理](#) (P.4-9)
- [デジタル メディア エンコーダの管理](#) (P.4-45)
- [ライブ イベントのセットアップのワークフロー](#) (P.4-51)

設定および配信の設定の管理



ヒント

新しい DMM アプライアンスでの DMM-VPM の設定については、Cisco.com にある『[Quick Start Guide for Cisco Digital Media System 5.1.x](#)』を参照してください。

管理者や設定マネージャは、[Setup] タブのオプションを使用して、DMM アプライアンスでの DMM-VPM の設定および配信の設定を管理できます。ユーザ アカウントおよび権限については、「[ユーザ アクセスの管理と権限設定](#)」(P.4-7) を参照してください。

- [管理およびネットワークの設定値の設定](#) (P.4-2)
- [UI リファレンス：環境パラメータの表示](#) (P.4-3)
- [Video Portal 使用のための設定](#) (P.4-4)
- [配信のためのロケーション設定](#) (P.4-6)

管理およびネットワークの設定値の設定

DMM-VPM の低レベルの管理およびネットワークの設定値を、設定することができます。

手順

-
- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Setup] > [DMM] を選択します。
- ステップ 3** 要件を満たす値を入力します。
- ステップ 4** [Save Configuration Parameters] をクリックして、入力を保存し確定します。あるいは、[Cancel] をクリックして、入力を破棄します。
-

関連項目

- [UI リファレンス：管理およびネットワークの設定 \(P.4-2\)](#)
- [UI リファレンス：Cisco Video Portal アプライアンス使用のための設定 \(P.4-4\)](#)

UI リファレンス：管理およびネットワークの設定

DMM-VPM の管理設定およびネットワーク設定値を設定するための要素および設定です。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [Setup] > [DMM]

表 4-1 グローバル変数設定の要素

要素	説明
[Application Administrator Contact Email]	ユーザからのヘルプの要求を受ける電子メール アドレス。DMM-VPM ではこのフィールドは読み取り専用で、DMS 管理者のスーパーユーザ アカウント用に指定された電子メール アドレスになっています。
[Deployment CC Email Recipient]	DMM からユーザに送信されるすべての配信および通知メッセージのコピーを受信する電子メール アドレス。 ヒント 電子メールのエイリアスを使用して、複数の受信者に通知を送信します。
[Password Retrieval Email]	Video Portal ユーザからの、なくしたパスワードの取得および復元の要求を受信する電子メール アドレス。 (注) 埋め込み認証を使用している場合、Video Portal User レベルのアクセスだけを持つユーザのために、電子メールを入力して、パスワード管理オプションを提供することをお勧めします。
[Metadata Checkout Duration]	ユーザがメタデータを編集のためにロックできる時間 (分単位)。
[Scheduled Deployment Interval (minutes)]	DMM が処理しなければならないスケジュール配信があるかどうかをチェックする自動化サイクル間の間隔 (分単位)。この設定は、スケジュールされた配信だけに関係しません。即時配信は、すぐに開始します。
[Default Content Provider]	作成された新規のプログラムにデフォルトで割り当てるコンテンツ プロバイダー名。たとえば、組織の名前を入力できます。
[E-mail Server]	DNS 解決可能なホスト名または SMTP サーバのルート指定可能 IP アドレス。これを通して、DMM は自動で電子メール メッセージを配信したり承認したりします。

表 4-1 グローバル変数設定の要素 (続き)

要素	説明
[Application Server Base]	DMM アプライアンスをポイントする、最低レベルの HTTP URL (TCP ポート番号を含む)。次に例を示します。http://dmm.yourdomain.com:8080 URL が到達可能かどうかを確認するには、[Check] をクリックします。
[Upload URL]	DMM アプライアンス上でバイナリ ファイルをアップロードし続けるサブディレクトリをポイントする HTTP URL (TCP ポート番号を含む)。次に例を示します。http://dmm.yourdomain.com:8080/DMM/temp/video_portal/asset URL が到達可能かどうかを確認するには、[Check] をクリックします。
[Upload Path on Local File System]	DMM アプライアンス上で一時的にバイナリ ファイルをアップロードし続けるサブディレクトリをポイントする (ルートディレクトリで始まる) 完全ファイルシステムパス名。次に例を示します。/dm2/apache-tomcat/webapps/DMM/temp/video_portal/asset パスが存在するかどうかを確認するには、[Check] をクリックします。
[Preview URL]	DMM アプライアンス上でプライベート ステージング エリアをポイントする HTTP URL (TCP ポート番号を含む)。 URL が到達可能かどうかを確認するには、[Check] をクリックします。
[Preview Path on Local File System]	DMM アプライアンス上でステージング エリア サブディレクトリをポイントする (ルートディレクトリで始まる) 完全ファイルシステムパス名。次に例を示します。/dm2/apache-tomcat/webapps/DMM/temp/video_portal パスが存在するかどうかを確認するには、[Check] をクリックします。

関連項目

- ユーザ アクセスの管理と権限設定 (P.4-7)

UI リファレンス : 環境パラメータの表示

次の表は、DMM アプライアンスの環境パラメータです。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [Setup] > [DMM]

表 4-2 環境パラメータ

パラメータ	説明
[DMM version]	DMM アプライアンスにインストールされている DMM-VPM のバージョンのリリース番号を示します。
[Java]	クライアントシステムにインストールされている Java のバージョンのリリース番号を示します。
[Database]	DMM アプライアンスにインストールされている MySQL のバージョンのリリース番号を示します。
[Tomcat uptime]	DMM アプライアンスを一番最近再起動してからのトータルの時間を、日数、時間単位、分単位で示します。

Video Portal 使用のための設定

Cisco Video Portal アプライアンスで、DMM-VPM を使用する設定値を設定できます。

手順

-
- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Setup] > [Video Portal] を選択します。
- ステップ 3** 要件を満たす値を入力します。
- ステップ 4** [Save Portal Parameter] をクリックして、入力を保存し確定します。あるいは、[Cancel] をクリックして、入力を破棄します。
-

関連項目

- UI リファレンス : [Cisco Video Portal アプライアンス使用のための設定 \(P.4-4\)](#)

UI リファレンス : Cisco Video Portal アプライアンス使用のための設定

表 4-2 では、Video Portal アプライアンス用に DMM-VPM を設定する要素および設定値について説明しています。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [Setup] > [Video Portal]

表 4-3 Video Portal 用に DMM-VPM を設定するための要素


要素	説明
[Video Portal Login Prompt]	Video Portal にログインすると表示されるテキスト。最大 25 文字。
[Video Portal FQDN]	次のものに定義した Video Portal アプライアンスと全く同じ DNS 解決可能ホスト名。 <ul style="list-style-type: none"> DNS サーバ AAI バージョンの Video Portal アプライアンス ホスト名には、アンダースコアやその他の特殊文字を使用しないでください。これらの文字は、DNS 標準でサポートされていません。文字、数字、ハイフンだけが使用できます。
[Video Portal Instance]	 注意 インスタンス名には Cisco を使用できません。Cisco の名前は、他の目的で予約および使用されています。インスタンス名に Cisco を使用すると、すべての配信に失敗します。 AAI バージョンの Video Portal アプライアンスに定義したのと全く同じインスタンス名。
[Video Portal Password]	Video Portal アプライアンス上で AAI の管理アカウントに現在有効なパスワード。Video Portal アプライアンスでパスワードを変更するときには必ず、ここに全く同じ更新されたパスワードを入力する必要があります。

表 4-3 Video Portal 用に DMM-VPM を設定するための要素 (続き)

要素	説明
[Video Portal Web Server Base]	視聴者が Video Portal を検出できるサーバのトップ レベル HTTP URL。URL が到達可能かどうかを確認するには、[Check] をクリックします。
[The URL to the live video portal]	パブリック Video Portal を直接ポイントする HTTP URL。 [Check] をクリックすると、次のメッセージのいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 「URL is blank.」: URL が入力されていない。 「Server was not found.」: 無効な URL が入力されている。 「URL exists.」: 入力された URL は、Video Portal を正しくポイントしている。
[Default Audio Only Image]	SWF または非プログレッシブ JPEG イメージで、すべての音声ファイルがサムネールとして表示されます。横 100 ピクセル、縦 75 ピクセル (あるいは、400×300 などの同じ縦横比) のファイルを指定する必要があります。このファイルは、「 管理およびネットワークの設定値の設定 」(P.4-2) を完了したときに、 [Upload Path on Local File System] で指定したものと同一ディレクトリになければなりません。 (注) このオプションは、ユーザまたは管理者が AAI を使用して Video Portal アプライアンスをセットアップした場合に、サポートされている唯一のファイルタイプとして FLV を、またサポートされている唯一の符号化形式として Flash/Sorenson を選択したときだけに適用されます。詳細については、Cisco.com の『 <i>Appliance Administration Guide for Cisco Digital Media System 5.1.x</i> 』の章「Setting Up and Configuring a Video Portal Appliance」にある「Task 10」を参照してください。
[Default Preview Image]	SWF または非プログレッシブ JPEG イメージで、ビデオファイルとして利用できるプレビューイメージが他にない場合に、プレースホルダー サムネール イメージとして表示されます。横 100 ピクセル、縦 75 ピクセル、あるいは同じ縦横比のファイルを指定する必要があります。
[Supported Media Formats]	サポートする形式。Flash Video、Windows Media、および MPEG4/H.264 (QuickTime) の任意の組み合わせを選んでください。
[Media Preferences by Browser]	Video Portal および埋め込みビデオ プレーヤーがビデオ再生を試行する順序。
[Video Portal URL with Plugin Detector]	Video Portal 上のプラグイン検出器をアクティブ化し、メディアを Video Portal 視聴メンバーに表示するときに、使用する形式を自動で選択できるようにする HTTP URL。
[Video Portal URLs by Individual Supported Media Formats]	Video Portal 上のプラグイン検出器をバイパスする HTTP URL で、そのメディア タイプを見るのに必要なプラグインの有無にかかわらず、Video Portal 視聴メンバーにメディア タイプを1つだけ見せるようにします。 ユーザがシステムに正しいプラグインをインストールしているか確認してください。インストールされていない場合、この URL を使用してビデオにアクセスするときに技術的な問題に遭遇する可能性があります。

配信のためのロケーション設定

ビデオ配信用にロケーション設定を行えます。ファイルは、DMM アプライアンスから直接視聴者に見ることができないので、最低 1 つのリモート ロケーションに配信しなければなりません。

作業を開始する前に

- 使用する各ファイル タイプに対する配置ロケーションを入力する必要があります。ファイル タイプ別に一意のロケーションを入力することも、すべてのファイル タイプに同じように適用される 1 つのロケーションを使用することもできます。無効な値が入力されると、配信が失敗します。

手順

- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Setup] > [Deployment Locations] を選択します。
- ステップ 3** 要件を満たす値を入力します。有効なファイル タイプは次のとおりです。

ファイル タイプ	説明
Flash Video	ビデオ提供の Flash Video 版として配信する、あるいはビデオプレビューとして見せる Flash (FLV) ファイル。
Windows Media Video	ビデオ提供の Windows Media 版として配信する Windows Media (WMV) ファイル。
MPEG4/H.264	ビデオ提供の Quicktime 版として配信する MPEG-4 (MP4、M4V、MP4V、M4A、または MOV) ファイル。
Support	SWF ファイルや非プログレッシブ JPEG ファイルなどのサポート イメージとして配信する任意の非ビデオ バイナリ ファイル。コンテンツ マネージャがダウンロード用にビデオ部分に追加する任意の関連アイテムは、このサポート ロケーションに配信されます。また、ダウンロードされる関連ファイルも、このサポート ロケーションに配信されます。

- ステップ 4** [Save Deployment Locations] をクリックして、入力を保存し確定します。あるいは、[Cancel] をクリックして、入力を破棄します。
- ステップ 5** (任意) すぐに配信するには、次の手順を実行します。
- [Video Portal] > [Deployments] を選択し、[Schedule New Deployment] をクリックします。
 - [Video Part Selection] エリアの [Video Part 1] チェックボックスを選択します。
 - プリロード コンテンツおよびメタ データをすぐに配信するには、[Deployment Time] エリアの [Schedule Immediately] チェックボックスをチェックします。
 - [Create Deployment] をクリックします。
 - コンテンツおよびメタデータが適切に配信されたことを確認するには、ネットワーク内の別のコンピュータを使用して、インストールした Video Portal にアクセスします。

関連項目

- [UI リファレンス : 配信ロケーションの設定 \(P.4-7\)](#)

UI リファレンス：配信ロケーションの設定

表 4-4 では、配信ロケーションの設定および要素について説明しています。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [Setup] > [Deployment Locations]

表 4-4 配信ロケーション設定の要素

要素	説明
[Connection type]	ファイル転送のプロトコルまたは方式（オプションは、FTP、SFTP、および SCP）。 どのプロトコルを使用するかにかかわらず、このページでの接続タイムアウトは 10 秒で、実際の配信中は 30 秒です。
[Host address]	DNS 解決可能なホスト名またはリモート サーバのルート指定可能 IP アドレス。ここへ、関連ファイルタイプのファイルを配信します。
[Login name]	リモート サーバへのアクセスに必要な権限を持つユーザ アカウント名。
[Login password]	指定したログイン名に割り当てられたパスワード。Video Portal アプライアンスへの配信に SFTP オプションを選択すると、入力したパスワードが Video Portal admin パスワードと全く同一でなければなりません。
[Root file directory]	配信するファイルへの絶対ディレクトリパス。[Check] をクリックすると、次のメッセージのうちの 1 つが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 「Field is blank」：パスが入力されていない。 「File Path Does Not Exist」：無効なパスが入力されている。 「File Path exists」：入力したファイルパスが、有効なファイルを正しくポイントしている。
[Root URL Path]	Video Portal がファイルをホストしたり参照したりする絶対 URL。[Check] をクリックすると、次のメッセージのうちの 1 つが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 「URL is blank」：URL が入力されていない。 「Server was not found」：無効な URL が入力されている。 「URL exists」：入力した URL が、有効なファイルを正しくポイントしている。

ユーザアクセスの管理と権限設定

管理者は DMM-VPM の [Users] タブを使用して、DMM-VPM、Video Portal Reports、Video Portal のユーザに対し、役割や責任に応じて、さまざまなレベルのアクセスおよび権限を割り当てることができます。

- [ユーザアカウントを使用する作業 \(P.4-7\)](#)
- [プロフィールの表示 \(P.4-8\)](#)

ユーザアカウントを使用する作業

ユーザアカウントには、次のものがあります。

- DMS-Admin での集中管理。
- DMM-VPM での割り当てられた役割。



(注)

DMM-VPM の管理者の場合、他の DMM-VPM ユーザにさまざまなレベルのアクセスや権限を割り当てられますが、管理者であっても、自分の権限を変更できません。管理者の場合は、他の管理者だけがアクセス権を変更できます。

作業を開始する前に

- DMS-Admin を使用して、ユーザ アカウントを作成するかインポートします。
- DMS-Admin を使用して、ユーザ認証設定値を設定します。

手順

- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Users] > [User Accounts] を選択します。
- ステップ 3** 権限を割り当てるユーザの横にある [Edit] をクリックします。

関連項目

- [ユーザ アカウントと認証設定の管理 \(P.2-5\)](#)
- [プロフィールの表示 \(P.4-8\)](#)
- [UI リファレンス：ユーザ アカウントの設定 \(P.4-8\)](#)

プロフィールの表示

(注)

- DMM-VPM では、プロフィール情報を編集できません。管理者または設定マネージャの権限があれば、DMS-Admin で編集できます。
- アクセスレベルによっては、[Module Access Type] エリアは表示されない可能性があります。

手順

- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Users] > [My Profile] を選択します。
- [My Profile] ページでは、ユーザ アカウントで作業するときに見ることのできる情報が表示されます。

UI リファレンス：ユーザ アカウントの設定

表 4-5 では、DMM-VPM ユーザおよび Video Portal のユーザの要素を説明しています。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [Users] > [User Accounts]

表 4-5 ユーザアカウントの要素

要素	説明
[First Name]	このアカウント用のユーザの名。 DMM-VPM は、ユーザがログインしたときの挨拶に、この名前を使用します。また、DMM-VPM は承認要求や電子メール通知を送信するときにも、この名前を使用します。
[Last Name]	ユーザの名字。 DMM-VPM は承認要求や電子メール通知を送信するときに、この名前を使用します。
[Company]	ユーザの会社名。
[Department]	ユーザの所属する部署名。
[Email Address]	ユーザの電子メールアドレス。DMM-VPM は、承認要求や通知を送信するときに、このアドレスを使用します。
[Phone Number]	ユーザの電話番号。
[Login User Name]	DMM-VPM、Video Portal、Video Portal Reports にログインするための、ユーザに割り当てられたユーザ名。
[Module Access Type]	ユーザアカウントに割り当て可能なアクセスのカテゴリを一覧表示します。アクセスタイプには、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • Administrator : ユーザ、パスワード、権限を管理する。 • Category Manager : カテゴリを作成したり、編集したり、ディセーブルにしたりする。 • Approver : コンテンツ アイテムを承認する。 • Video Portal User : Video Portal 上のコンテンツを表示する。 • Author : プログラム、ビデオ、ビデオ パーツ、およびラインナップを作成したり、編集したり、ディセーブルにしたりする。 • Designer : テンプレート、ロゴ、背景イメージ、およびリンクなど、視聴者の Video Portal グラフィカル ユーザ インターフェイスの面を編集する。 • Configuration Manager : DMM アプリケーション設定にアクセスする。 • Video Portal Reports User : DMM-VPM で、Video Portal Reports を使用する。

プログラム、ビデオ、ビデオ パーツ、およびラインナップの管理

管理者および作成者は、[Video Portal] タブのオプションを使用して、プログラム、ビデオ、ビデオ パーツ、およびラインナップを作成したり、修正したり、ディセーブルにしたりできます。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [プログラム、ビデオ、およびビデオ パーツでの作業 \(P.4-10\)](#)
- [ビデオ パーツまたは再生リストの承認または拒否 \(P.4-18\)](#)
- [ライブ イベント モジュール \(P.4-19\)](#)
- [同期スライドを使用する作業 \(P.4-19\)](#)
- [視聴者の質問への対応 \(P.4-22\)](#)

- 再生リストの作成および作業 (P.4-25)
- コンテンツ カテゴリの作成および作業 (P.4-28)
- ティッカーの作成および使用 (P.4-33)
- インタースティシャルの作成および作業 (P.4-30)
- インタースティシャル シーケンスの作成および作業 (P.4-32)
- Video Portal のカスタマイズ (P.4-35)
- 配信管理の設定の確認 (P.4-38)



(注)

Video Portal Reports オプションの機能は、[Video Portal] タブからも利用できます。詳細については、付録 A の「[Video Portal Reports の使用](#)」を参照してください。このオプションを表示するには、Video Portal Reports User 権限が必要です。

プログラム、ビデオ、およびビデオ パーツでの作業

プログラムを作成して、ビデオやビデオ パーツと共に実装し、そのプログラムを視聴者に、生でまたはオンデマンドで配信できます。

クローズド キャプションを提供する場合、Video Portal の視聴者には、クローズド キャプション アイコンが表示され、クリックすればテキストを表示できます。詳細については、『*User Guide for Cisco Video Portal 5.1.x*』を参照してください。

手順

- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択し、[Video Portal] > [Programs] を選択します。[Programs] ページでは、2 つのテーブルをトグルできますが、2 つは大抵の場合とてもよく似ていて、両方とも DMM-VPM プログラムを示します。プログラムを、一方のテーブルからもう一方のテーブルへ移動できます。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- [Active] をクリックして、[Active] テーブル内で、視聴者に見せることのできるプログラムすべてのリストを表示させます。これらのプログラムは、ディセーブルにしていないという意味で、アクティブです。プログラムを作成したことがない場合、あるいはすべてのプログラムをアーカイブした場合には、テーブルは空になります。
 - [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、一時的にディセーブルにした全プログラムのリストを表示します。これらのプログラムは、視聴者が見つけることも表示することもできず、再生リストに追加することもできないという意味で、ディセーブルです。そのため、これらのプログラムの復元や削除を選択することも可能です。
- ステップ 3** 要件を満たす値を入力します。
- ステップ 4** [Save] をクリックします。

関連項目

- コンテンツ オブジェクトの要件 (P.4-11)
- ビデオ パーツの承認 (P.4-11)
- 西欧フォントのサポート (P.4-11)

- [クローズド キャプション \(P.4-11\)](#)
- [UI リファレンス : コンテンツ オブジェクトの設定 \(P.4-12\)](#)

コンテンツ オブジェクトの要件

- プログラム、ビデオ、ビデオ パーツはすべて、コンテンツ オブジェクトです。コンテンツ オブジェクトは、必要に応じていつでも、作成したり編集したり、ディセーブルにしたり削除したりできます。
- 1つのプログラムに複数のビデオを含めることは可能ですが、複数のプログラムにビデオを追加できません。
- 作成する各プログラムには、視聴者に見せる前に少なくとも1つのビデオを含んでいなければなりません。
- 作成する各ビデオには、視聴者に見せる前に少なくとも1つのビデオ パーツを含んでいなければなりません。

ビデオ パーツの承認

DMM-VPM は、ビデオ パーツの承認を追跡するよう設定できます。コンテンツの作成者はビデオ パーツの承認を要求でき、指定アプルーバはその要求を承認または拒否できます。指定アプルーバには、DMM-VPM ユーザ タイプが Approver の人から選びます。指定アプルーバであっても、自分の要求を承認できません。承認および拒否は、ビデオ パーツが配信できるかどうかには無関係です。そのため、承認プロセス ワークフローは、セキュリティ ポリシーの徹底には利用できませんが、組織でコミュニケーションをフォーマル化するのには役立ちます。ユーザ アカウントおよび権限については、「[ユーザ アクセスの管理と権限設定](#)」(P.4-7) を参照してください。

西欧フォントのサポート

Video Portal では、コンテンツ作成者がブラウザ、オペレーティング システム、およびキーボードのサポート対象言語バージョンを使用して、DMM-VPM のビデオについての情報を入力している場合、ISO 8859-1 標準に含まれる西欧言語フォントを表示できます。コンテンツ作成者が提供する情報は、ブラウザの言語設定にかかわらず、書かれた言語で Video Portal ビューアに表示します。Video Portal ナビゲーション要素は英語で表示され、Video Portal ユーザは、タイトルや説明に英語以外の文字を含むビデオを検索できません。

クローズド キャプション

クローズド キャプション機能では、Windows Media ストリーム内に埋め込まれたクローズド キャプションを Video Portal ビューアに表示できます。

- **Closed captioning for VoDs** : このオプションでは、手動かソフトウェア ツールを使用して音声トラックを転写し、トランスクリプションをビデオと同期し、VoD を発行して Video Portal に配信する前に特別な SAMI ファイルを作成する必要があります。
- **Closed captioning for DME live events** : このオプションでは、イベントの前に DME 上でエンコーダ プロファイルを編集して、クローズド キャプション テキストのエンコーディングを可能にしておく必要があります。詳細については、エンコーダに付属の資料を参照してください。その後、イベント中には、テキストを提供するための stenographer 型システムと、そのテキストをアナログビデオ シグナルに挿入するためのクローズド キャプション マルチプレクサが必要です。

UI リファレンス：コンテンツ オブジェクトの設定

表 4-6 では、コンテンツ オブジェクト（プログラム、ビデオ、およびビデオ パーツ）を設定する要素 および設定値について説明しています。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [Programs]

表 4-6 コンテンツ オブジェクト設定の要素

要素	説明
[Add New {Program Video Video Part}] 	それぞれ次のいずれかのページを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> [Add New Program] [Add New Video] [Add New Video Part]
[Archive Selected] 	[Active] テーブルから選択したコンテンツ オブジェクトを、[Archive] テーブルに移動します。 プログラムをアーカイブしたとき、その中のビデオとビデオ パーツはアクティブのままになります。それらを再生リストに入れて配信し、視聴者が Video Portal の中にあるのをキーワードサーチで見つけられるようになります。
[Delete Selected] 	<p> 注意 プログラムを削除したとき、その削除の実際の影響は、そのプログラムが再生リストの一部かどうかによって異なります。アクティブで配信された再生リストの一部であるプログラムを削除した場合、視聴者は、Video Portal 上のそのプログラム、そのプログラムのビデオ、およびそのビデオ パーツを、見つけたり表示したり使用したりできます。しかし、そのプログラムをどの再生リストにも入れていない場合、DMM-VPM は直ちにそのプログラム、ビデオ、ビデオ パーツを削除します。これらは DMM-VPM 内または Video Portal 上でいかなる目的でも利用できず、削除を元に戻すことはできません。しかし、VOD ファイルは、コンテンツ保管ロケーションからファイルを削除するまではダイレクト ポータルリンクを介して利用できます。</p> <p>[Delete Confirmation] ページを表示します。選択したディセーブルまたはアーカイブされているコンテンツ オブジェクトを削除する方法については、このページに記載されています。</p>
[Activate Selected] 	[Archive] テーブルから選択したコンテンツ オブジェクトを、[Active] テーブルに移動します。
[Select a Program Provider to Filter On]	プログラム プロバイダーを一覧表示します。プロバイダー名を選択し、プログラムのリストをフィルタリングして、そのプロバイダーに関連するプログラムだけを表示します。
カラム	
[Untitled check box]	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> [Active] テーブルで、選択されたときにディセーブルするコンテンツ オブジェクトをマーキングします。 [Archive] テーブルで、ディセーブルしたコンテンツ オブジェクトをマーキングし、選択したときに復元や削除を行えるようにします。

表 4-6 コンテンツ オブジェクト設定の要素 (続き)

要素	説明
[Name]	コンテンツ オブジェクトの名前またはタイトル。対応する行には、[Modify] () ボタンについての解説とアイコンが表示されますが、[Preview] () ボタンが表示される場合もあります。名前カラムの値は、デフォルトでは、DMM-VPM が行をソートする方法に基づいていますが、他の任意のカラムの見出しをクリックして、そのカラムの値で行を再ソートできます。[Modify] ボタンをクリックすると、DMM-VPM はページをロードし、タイトルやプログラムの説明などのコンテンツ オブジェクト メタデータが編集できます。
[Provider]	プログラムだけ。 そのプログラムを作成したプロバイダーを示します。1 つの行で、プログラム メタデータとして指定して表示されます。
[Last Modified]	コンテンツ オブジェクトが最後に編集された日を示します。
[Active Videos]	プログラムだけ。 [Active Videos] () ボタンおよび [Add New Video] () ボタンを表示します。[Active Videos] ボタンをクリックすると、DMM-VPM は、ビデオを対応する行が示すプログラムに追加できます。またはそのプログラムから削除するビデオにマーキングします。[Add New Video] をクリックすると、DMM-VPM は、新しいビデオのメタデータを入力できるページをロードします。
[Active Categories]	プログラムだけ。 対応する行が示すプログラムの [Active Categories] ページが表示されます。[Active Categories] ページから、カテゴリを選択し追加してプログラムに関連付けたり、カテゴリを選択してプログラムからカテゴリの関連付けを削除したりできます。
[Active Video Parts]	ビデオだけ。 [Active Video Parts] () ボタンおよび [Add New Video Part] () ボタンを表示します。[Active Video Parts] ボタンをクリックすると、DMM-VPM は、ビデオ パーツを対応する行が示すビデオに追加できるページをロードします。またはそのビデオから削除するビデオ パーツにマーキングします。
[Release Date]	ビデオ パーツだけ。 リリース日を示します。
[Length]	ビデオ パーツだけ。 ビデオ パーツの再生時間を、日数、時間、分、秒で示します。
[Active Related Items]	ビデオ パーツだけ。 対応する行に記載されているビデオ パーツに対する [Active Related Items] ページを示します。[Active Related Items] ボタンをクリックすると、DMM-VPM は、Web サイトやファイルへのリンクなどのアイテムを対応する行が示すビデオ パーツに追加できるページをロードします。またはそのビデオ パーツから削除する関連項目にマーキングします。
[Approval Status]	ビデオ パーツだけ。 対応する行で示されているビデオ パーツの承認を要求するには、[Request Approval] をクリックし、ポップアップ ウィンドウのリストからアプルーバを選択してから、[Request Approval] と [Close] をクリックします。

新しいプログラムの追加 | プログラムの変更

プログラムを定義するメタデータ属性。[Add New Program] をクリックした後か、プログラムの [Edit] ボタンをクリックした後、メタデータを入力するか選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Program Name]	視聴者が [Program Guide] タブをクリックしたときに表示されるプログラムのタイトル。Video Portal 上では、入力した先頭 25 文字だけが表示されます。
[Program Description]	視聴者が [Program Guide] タブで、対応するプログラム名の横に見ることのできる説明。また、この説明は、Video Portal の、このプログラムに含まれるどのビデオの [More Info] テキストの中にも表示されます。

表 4-6 コンテンツ オブジェクト設定の要素 (続き)

要素	説明
[Program Status]	[Active] を選択すると、そのプログラムは、実装し保存し配信した後、視聴者から見えるようになります。[Archive] を選択すると、そのプログラムは視聴者に見えません。
[Program Provider]	会社や組織、部門の名前。この情報を使用して、コンテンツを管理できます。視聴者からは見えません。デフォルトのプロバイダー名は、[Setup] タブで選択したものになります。
[Program Categories]	視聴者は、Video Portal 上で、プログラム ガイドまたは検索機能を使用して、選択されたカテゴリ内のこのプログラムを見つけることができます。カテゴリ割り当ては、いつでも追加したり削除したりできます。

新しいビデオの追加 | ビデオの変更

ビデオを定義するメタデータ属性。[Add New Video] をクリックした後か、ビデオの [Edit] ボタンをクリックした後、メタデータを入力するか選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Video Title]	視聴者が再生リストやプログラム ガイド、検索機能を使用するときに、Video Portal に表示されるビデオのタイトル。先頭 33 文字だけが使用されます。
Video Status	[Active] を選択すると、作成したプログラムにビデオを追加できます。[Inactive] を選択すると、再度アクティブにするまでプログラムにはビデオを追加できません。
[Video Description]	参考用の説明。視聴者には見えません。

新しいビデオ ポートの追加 | ビデオ パーツの変更

ビデオ パーツとして使用するファイルの物理属性および論理属性。[Add New Video Part] をクリックした後か、ビデオ パーツの [Edit] ボタンをクリックした後、属性を入力するか選択します。

[Show Direct Portal Link]	このビデオ パーツ用の Video Portal URL を表示します。 ビデオ パーツをアーカイブまたは削除すると、Video Portal 一覧表示からダイレクト ポータル リンクが削除されますが、元の配信ロケーションから VOD ファイルにアクセスし続けます。ファイルはコンテンツ保管場所から削除して、アクセスできないようにすることをお勧めします。
[Video Part Description]	視聴者が Video Portal 上で、[Overview] タブのプレビュー ペインおよび [More Info] テキスト内で見ることのできる説明。テキストは、72 行以内、行あたりの文字数は 48 文字以内にしなければなりません。この要素は、ビデオ パーツを追加または編集するときだけ表示されます。

表 4-6 コンテンツオブジェクト設定の要素 (続き)

要素	説明
[Type of Video]	<p>VoD の場合、ソースはファイルです。DME Live Event または Non-DME Live Event の場合、ソースはエンコーダです。Non-DME Live Event オプションを使用すると、ライブ ストリーム URL を Video Portal にパブリッシュし、イベント ビジビリティをコントロールするには役立ちますが、エンコーダをコントロールできません。VoD オプションは、非 DME ライブ イベント用ですが、このオプションを Cisco Video Portal でイベント ビジビリティをコントロールするには使用できません。</p> <p>{Flash Windows Media QuickTime} Video (ビデオまたは音声) : 新しい VoD ファイルのアップロードへのリンクをクリックした後に、自分で入力したか DMM-VPM に自動で入力されたファイル名を表示します。制約事項 : アップロードでサポートされるファイルサイズは、最大 2GB で、2GB より大きいビデオ パーツをアップロードできません。この制約事項を回避するには、ファイルをパブリックの Web サーバにポストし、対応する HTTP URL を、ファイル名の代わりに入力してください。VoD 用にファイル名を手動で入力した場合、特別な要求が各サポート ファイル タイプに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アップロードするリモート Flash ファイルをポイントするには、HTTP を使用する必要があります。Flash ファイルのファイル名の拡張子には、{FLV FLA} を使用しなければなりません。Cisco Video Portal は Flash ビデオ ストリーミングをサポートしていないため、ライブ イベントには、メディア形式として Flash は選択できません。 • アップロードするリモート Windows Media ファイルをポイントするには、{MMS RTSP} を使用する必要があります。Windows Media ファイルは、ファイル名の拡張子に {WMV WMA ASF} を使用しなければなりません。クローズド キャプションには、Windows Media が必要です。 • アップロードするリモート QuickTime (または H.264) ファイルをポイントするには、{HTTP RTSP} を使用する必要があります。これらのファイルは、ファイル名の拡張子に {MOV MP4 M4V MP4V M4A} を使用しなければなりません。 <p>DMM-VPM では、用語の MPEG-4、QuickTime、および H.264 を、いずれも同じように使用します。DMM-VPM は、[Setup] タブで指定した配信ロケーションに、アップロードされた VoD ファイルを保存します。表示されるファイル形式は、Video Portal を設定したときに選択したものと全く同一です。Video Portal がサポートしている各形式にそれぞれ 1 つのファイルを入力するかアップロードしなければなりません。すべてのファイルを横 400 ピクセル、縦 300 ピクセルでエンコードすることをお勧めします。ビデオ タイプとして DME Live Event オプションを選択した場合、次のような追加オプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Encoder : DMM-VPM を使用できるよう設定したすべてのエンコーダを一覧表示します。ライブ ストリームのソースであるエンコーダを選択します。 • Use Default Streaming Settings : DMM-VPM の設定をそのまま使用します。 • Advanced Settings : デフォルトは異なる設定を、このストリームに適用します。符号化フォーマットまたは変換フォーマット、パブリッシング方式 (プッシュまたはプル)、ビデオ入力方式 (Composite/RCA または S-Video)、音声入力方式 [Unbalanced (RCA) または XLR Balanced]、ビデオ入力標準¹、ライブ ストリームのコピーを、後に VoD として表示するためにファイルとして保存するかどうか、さらに、エンコーダが DME 2000 の場合には、使用する DME 2000 入力チャンネル (A または B) を選択します。符号化フォーマット オプションは、1.5M、350K、50K、および 768K です。変換フォーマット オプションは、1.5M、2M、350K、50K、および 768K です。 <p>ライブ ストリームをポイントする場合には、ファイル名は必要ありません。ほとんどの場合、ストリーミング サーバ上のディレクトリを代わりにポイントします。組織で使用する設定がはっきりしないときは、詳細をシステム管理者に問い合わせてください。ストリーミング オプションは、Windows Media には利用できませんが、Flash ビデオには利用できません。ビデオ タイプとして Non-DME Live Event オプションを選択した場合、次の追加オプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Event Status : イベントへの Video Portal アクセスがオンになっているかオフになっているかによって、[Pending]、[Live]、または [Stopped] が表示されます。 • {Start Stop Re-Start} Live Event : イベントへの Video Portal アクセスのオン オフ切り替えを可能にします。

表 4-6 コンテンツ オブジェクト設定の要素 (続き)


要素	説明
[Play Order in Video]	ビデオの中のすべてのビデオ パーツの再生順序との関係で、ビデオでこのビデオ パーツをいつ再生させるかを示します。
[{Release End of Life} Date/Time]	 をクリックして日付を選び、時間と分についてのオプションを選択してから、AM または PM を選択します。リリース日は、デフォルトで当日になっています。 <ul style="list-style-type: none"> • DME Live Event および Non-DME Live Event : ライブ イベントをセットアップする場合、[End of Life Date/Time] の値を明示的に入力する必要があります。DMM-VPM では、この値は [Release Date/Time] の値から自動で取得されません。[End of Life Date/Time] の値を入力しないと、[Encoder] テーブル内にそのイベントは表示されず、イベントを開始することができません。また、Video Portal でそのイベントは見えません。 • VoD : [EoL/Date] フィールドは、コンテンツをいつアーカイブするかを DMM-VPM 内で示すプレースホルダです。 <p>ヒント Video Portal からビデオを削除したいときは、DMM-VPM で、ビデオ パーツ ページ用のアーカイブ機能を使用します。その後、新しい配信を作成してビデオを削除します。</p>
[Duration]	<p>ビデオ パーツの再生時間を、時間、分、秒で示します。HH:MM:SS の形式を使用します。秒だけを入力すると、DMM-VPM によって入力が入力が訂正されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DME Live Event および Non-DME Live Event: ライブ イベントのスケジュールされた長さを、対応するストリームの時間として使用できます。スケジュールされた停止時間を超えて実際のイベントが実行される場合、入力した時間になっても、Video Portal での全ストリーム配信は停止しません。ストリームは、停止されるか利用できなくなるまで、Video Portal 内で再生され続けます。 • VoD : Windows Media ビデオ ファイルおよび QuickTime ビデオ ファイルには、時間を手動で入力する必要がありますが、Flash ビデオ ファイルには自動で情報が提供されます。
[Access restrictions]	<p>コンテンツ レベルのビュー セキュリティをイネーブルにするため、Video Portal は、ユーザの見るコンテンツだけを表示します。</p> <p>(注) アクセス制限を徹底するため、DMS-Admin では認証をイネーブルにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • None (すべてのユーザ グループから表示可能) : 指定すると、すべての Video Portal ユーザが、ビデオ パーツの情報を表示して視聴できます。 • Viewable only to select groups : 指定すると、権限のあるユーザ グループだけが、ビデオ パーツの情報を表示して視聴できます。[Choose Group] をクリックして、管理者が作成したグループを表示するか、グループを作成したり編集します。
[Preview Content File URL]	Video Portal がこのビデオ パーツ用のプレビュー イメージとして見せる SWF ファイルまたは非プログレッシブ JPEG ファイル (横 100 ピクセルで縦 75 ピクセル、またはこれと同じ縦横比のファイル) のロケーション。ローカル ファイルを選択してアップロードするには、[Upload new preview video file] をクリックします。SWF ファイルを使用する場合は、10 秒後に一時停止してループしないようプログラムすることをお勧めします。Cisco Video Portal では、プログレッシブ JPEG イメージを表示できません。
{Pre-Event Post-Event} JPEG URL	ライブ イベントの {前 後} に JPEG イメージをアップロードして表示します。
[Enable Questions from the Audience]	{On Off} をクリックして、質問のサポートをイネーブルまたはディセーブルにします。

表 4-6 コンテンツオブジェクト設定の要素 (続き)

要素	説明
[Slide Show]	ビデオ ストリームの次に見せる SWF ファイルまたはスライドの ZIP アーカイブを選択します。VoD へのスライド プレゼンテーションのアップロード機能は、ライブ イベントから作成された VoD のために使用されます。アップロードした ZIP アーカイブには、PowerPoint (または類似ソフトウェア) からエクスポートした JPEG ファイルが含まれていて、ファイル名のシーケンスが、元の順序を維持できるよう正しく番号付けされていなければなりません。
[Preview Description]	Video Portal で視聴者に表示される説明テキストですが、160 文字より後ろは切り捨てられます。プレビューの説明を入力していない場合、Video Portal では、代わりにビデオ パーツの説明の先頭 160 文字が表示されます。
[Keywords]	Cisco Video Portal でこのビデオ パーツを検索可能にする説明語。カンマ、セミコロン、その他の単語区切り文字を入力しても、Cisco Video Portal に無視されます。
[Embedded Video]	Video Portal インターフェイスのないカスタム Web サイトに埋め込んで、ライブまたはオンデマンドのビデオを表示するために必要な HTML コードを提供します。埋め込みビデオには、アクティブな Video Portal が必要です。ビデオおよび基本再生コントロールがビューアに表示される前に、コードによって、符号化されたビデオ タイプがチェックされ、正しいサポート デコーダ ソフトウェアがオープンされるためです。しかし、ビューアは Video Portal にログインする必要がないため、[Video Portal Reports] でこのビデオの使用量統計は利用できません。 (注) コードによってビデオへのダイレクト アクセスが提供されるため、Cisco Video Portal にアクセス制限を割り当てないでください。アクセスの管理には、Web サイトにセキュリティ方式を実装するか、コードをパブリッシュするアプリケーションを使用することをお勧めします。 ヒント Video Portal ユーザは、ダイレクト Video Portal URL を他のユーザに送信してビデオを共有することもできます。他のユーザは、アクセス権限があれば、そのビデオを視聴できます。URL 共有の詳細については、Cisco.com の『 <i>User Guide for Cisco Video Portal 5.1.x</i> 』を参照してください。

{ 新しい関連アイテムの追加 | 関連アイテムの変更 }

Web サイトへのリンク、Video Portal の他のプログラム内のビデオ パーツへのリンク、もしくは視聴者がダウンロードして使用するファイルへのリンク。視聴者が再生中に [More Info] をクリックすると、Video Portal 上にあるビデオ パーツの関連アイテムが表示されます。[Add New Related Item] をクリックし、リンクのタイプを選択し、メタデータを入力します。この他に、関連アイテムの [Edit] ボタンをクリックして、メタデータを変更する方法もあります。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Download]	ユーザに、ダウンロードするファイルを提供します。適切にダウンロードを行うには、ビデオ ファイルが ZIP アーカイブ内にある必要があります。
[Web Link in New Default Browser]	標準ブラウザでオープンする URL を提供します。
[Web Link in New Custom Browser]	DMM-VPM でカスタマイズするブラウザでオープンする URL を提供します。
[Related Video]	他のビデオ パーツへのリンクを提供します。

1. 次のうちのいずれかです。
 - NTSC_M (米国)
 - NTSC_M_J (日本)
 - PAL_B
 - PAL_D
 - PAL_H
 - PAL_I
 - SECAM_B
 - SECAM_D
 - SECAM_G
 - SECAM_H
 - SECAM_K
 - SECAM_K1
 - SECAM_L
 - SECAM_L1

関連項目

- [ユーザアカウントと認証設定の管理 \(P.2-5\)](#)
- [ビデオ パーツの承認 \(P.4-11\)](#)
- [クローズド キャプション \(P.4-11\)](#)
- [ライブ イベント モジュール \(P.4-19\)](#)
- [同期するスライドの生成およびインポート \(P.4-20\)](#)
- [コンテンツ カテゴリの作成および作業 \(P.4-28\)](#)
- [プッシュ設定の管理 \(P.4-49\)](#)
- [DME ライブ イベントのスケジュール時間の修正 \(P.4-54\)](#)

ビデオ パーツまたは再生リストの承認または拒否

ビデオ パーツまたは再生リストの承認リクエストが送信されると、DMM-VPM は宛先アプルーバに電子メールを送信します。電子メール メッセージに含まれるリンクから、ビデオ パーツをプレビューして承認または拒否できます。

このメッセージを受信したら、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 電子メールのリンクをクリックして、ビデオ パーツまたは再生リストをプレビューし、ブラウザに [Approval Request] ページがロードされたら、[Preview Now] をクリックします。
 - ステップ 2** ビデオ パーツを視聴し、コメントが何かあれば入力し、ウィンドウの一番下にあるコントロールを使用して、要求を承認または拒否します。

DMM-VPM は即座に更新され、要求が承認または拒否されたことを、電子メールでリクエストに通知します。
 - ステップ 3** DMM-VPM に戻るには、[Close and Return] をクリックします。
-

関連項目

- [ビデオ パーツの承認 \(P.4-11\)](#)

ライブ イベント モジュール

ライブ イベント モジュールは、次のことに役立つ DMM-VPM への個別ライセンスのアドオンです。

- ライブ音声付きのプレゼンテーション スライドと、Video Portal で見せるビデオ ストリームを同期させる。
- リモートの視聴者メンバーが Video Portal でライブ イベントを見ている間に送信するテキストベースの質問を受信し対応する。



(注)

ライブ イベントをホストするたびに、DMM-VPM エンコーダ ダッシュボードから、DME をリモートで起動する必要があります。DME シャーシ上の物理コントロールを使用してエンコーダを起動する場合、ライブ イベントは Video Portal 視聴者メンバーからは利用できなくなります。

関連項目

- [同期スライドを使用する作業 \(P.4-19\)](#)
- [視聴者の質問への対応 \(P.4-22\)](#)

同期スライドを使用する作業

ライブ イベント モジュールを使用するためのライセンスを購入した場合、ライブ イベントのモデレータは、スライドとライブ イベント ストリームを同期できます。スライドの同期オプションでは、Windows Media 形式を使用していて、DME 1000 または DME 2000 のどちらかをエンコーダとして使用する必要があります。Windows Media および DME は、現在他の符号化フォーマットと共に利用できないというタイプの API を使用し、スライド、および音声とビデオのストリームの間の密接な同期をサポートします。

スライドのディレクトリ ロケーション

JPG ファイルのスライドの場合、[Deployment Locations] ページの [Support] エリアに指定したルートディレクトリ内に /slides サブディレクトリが存在しない限り、同期スライドの配信は失敗します。[Root File Directory] フィールドにスラッシュ (/) を使用していれば、DMM-VPM によって、自動的に /slides サブディレクトリが作成されますが、バックスラッシュ (¥) を使用している場合には作成されません。バックスラッシュを使用した場合、指定したサーバにログインして、手動に必要なサブディレクトリを作成する必要があります。

SWF ファイルに含まれるスライドについては、SWF スライドの動作を妨げる可能性のあるクロスドメイン アクセス問題を回避するため、スライドは、/appliance_name/dms/video_portal/assets/ ディレクトリの Video Portal アプライアンスにコピーされます。また、このセットアップは、SWF ファイルがアップグレード中に上書きされるのを防止します。

ライブ イベントから作成される VoD ファイル

ライブ イベントからの VoD の作成を選択した場合、イベントの終了後に、そのイベントの結果の VoD ファイルをパブリッシュできます。Cisco DMS 5.1.x では同期データがビデオ データと共にインラインで保存されるため、VoD ファイルを編集したり、ライブ イベント中に作成されたスライド同期コマンドを保持したりできません。そのため、そのファイルを再度レンダリングおよび符号化するために Windows Movie Maker などのサードパーティのビデオの作成編集ツールを使用すると、データが失われます。



ヒント

ビデオ時間を編集をするには、Windows Media File Editor などのサードパーティ ツールを使用して、ビデオクリップの長さをトリミングしたり、同期データをヘッダに転送したりできます。

関連項目

- [配信のためのロケーション設定 \(P.4-6\)](#)
- [同期するスライドの生成およびインポート \(P.4-20\)](#)
- [スライドショーの操作 \(P.4-21\)](#)
- [同期スライド使用時の Video Portal 視聴者への表示 \(P.4-22\)](#)

同期するスライドの生成およびインポート

ほとんどの場合、ライブ イベント中に見せる同期スライドは、組織がこの目的のために用意した Microsoft PowerPoint プレゼンテーションから生成したものです。その他、組織では、プレゼンテーション スライドを開発するのに他のベンダーの類似ソフトウェアを使用する可能性もあります。

- [スライドの作成およびインポートのベスト プラクティス \(P.4-20\)](#)
- [同期用の ZIP ファイルの作成およびインポート \(P.4-20\)](#)
- [同期用の SWF ファイルの作成およびインポート \(P.4-21\)](#)

スライドの作成およびインポートのベスト プラクティス

スライドの作成	<p>ライブ イベント モジュールと共に使用するスライドを作成するには、2 通りの方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 連番付きの JPEG ファイルをプレゼンテーションからエクスポートし、そのエクスポートされたイメージを、インポートする ZIP アーカイブ内に保存します。この方式の 1 つの利点は、組織でソフトウェアを買い足す必要がないということです。しかし、エクスポートされたイメージでは、Video Portal 上の各自のサイズ変更可能ウィンドウでのスライドの表示を選択した視聴者メンバーには、高品質のビューが提供されない可能性があります。 • プレゼンテーションを SWF ファイルに変換するサードパーティのアドオンを使用すると、あとでその SWF ファイルをインポートできます。この方式を使用する利点は、配信するためのファイルを 1 つしか生成しないことです。また、ビューアがスライドを新しいウィンドウでオープンしてこのウィンドウをサイズ変更するオプションを選択したときに、より高品質のビューを提供できます。
スライドのインポート	<p>ライブ イベント中に同期スライドを見せる場合、ライブ イベントが開始する 30 分前までに、ライブ イベントを作成し、そのイベント用のスライドをアップロードすることをお勧めします。そうすることで、ほとんどの場合、組織でライブ ストリーミングのサポート用に設定したすべての Web サーバおよびコンテンツ配信デバイスに、スライドが到達してキャッシュされるのに、十分な時間を取ることができます。</p>

関連項目

- [同期用の ZIP ファイルの作成およびインポート \(P.4-20\)](#)
- [同期用の SWF ファイルの作成およびインポート \(P.4-21\)](#)

同期用の ZIP ファイルの作成およびインポート

次の手順では、PowerPoint が優先ソフトウェアであることを前提としています。

手順

-
- ステップ 1** PowerPoint スライド デッキの準備が完了したら、[File] > [Save As] を選択します。
- ステップ 2** [Save as type] リストから、[JPEG file Interchange Format (*.jpg)] を選択します。
- ステップ 3** オペレーティング システムでこの用途に提供している方式を使用し、エクスポートされたスライドの JPEG バージョンを保存する新規フォルダを作成して名前を付けます。入力する名前には、スペースを含めることはできません。
- ステップ 4** スライドのエクスポートを開始するには、[OK] をクリックします。
- ステップ 5** [Do you want to export every slide in the presentation or only the current slide?] というプロンプトが表示されたら、[Every Slide] をクリックします。
- 作成して名前を付けたフォルダの中に、PowerPoint によって各スライドが抽出されて個別の JPEG ファイルとして保存されます。各 JPEG ファイルは、ファイル名として昇順の番号が付けられます。
- ステップ 6** PowerPoint がスライドのすべての JPEG バージョンの保存を終了したら、それらのファイルを含むフォルダを圧縮し、ZIP アーカイブのベースにするようにします。
-

同期用の SWF ファイルの作成およびインポート

PowerPoint スライドデッキの準備が終了したら、サードパーティのアプリケーションまたは個別に購入した PowerPoint プラグインを使用して、スライドを SWF ファイルに変換します。SWF ファイルへの変換の前に、すべてのスライド内およびスライドからスライドへのトランジションを削除してください。

スライド ショーの操作

たいていのライブ イベントでは、指定の同期オペレータは、提供された 2 つのコンソールのうちの 1 つを使用して、スライドを、ライブ プレゼンタのアクションと同期させます。たとえば、プレゼンタがプレゼンテーション内の 1 枚のスライドを前に進めると、同期オペレータも、同期コンソールを使用して同じことをします。スライドを同期させるためにサポートされている方法は、2 通りあります。

- **Simple** : 最初の同期方式では、各スライドを見せるシンプルなフルスクリーンインターフェイスを使用します。スライドを変更したり同期したりするために、同期オペレータまたはプレゼンタは、キーボードの右矢印キーまたは左矢印キーを押して、プレゼンテーション全体を通して、一度に 1 枚のスライドを前または後ろへ移動させます。この方式は、プレゼンタが（別の同期オペレータではなく）スライドを管理する小さなイベントやスタジオ イベントに向いています。
- **Advanced** : 2 番目の方式では、右側にスライド選択コントロールのある、より高度なビューを使用します。この方式を使用することで、同期オペレータまたはプレゼンタは、スライドを選択してスキップし、スライド デッキのスライドを前方または後方へすばやく移動することができます。

スライドが同期されるたびに、ライブ イベント モジュールはストリームにコマンドを挿入します。

- プレゼンテーション スライドを、ZIP アーカイブ内にアップロードした番号付きの JPEG イメージのシーケンスに変換した場合、ストリーム内のコマンドで、Video Portal に、関連 JPEG ファイルを取得して視聴者メンバーに表示するよう指示されます。
- プレゼンテーション スライドを SWF ファイルに変換した場合、ストリーム内のコマンドで、Video Portal に、SWF 内の関連するセクションを見つけて視聴者メンバーに表示するよう指示されます。

このプロセスにより、スライドはストリームに密接に同期されるようになります。

スライドの同期が起こるたびに、そのアクションがエンコーダ コンソール イベント ウィンドウに記録されます。

同期スライド使用時の Video Portal 視聴者への表示

同期スライドをライブ イベントまたは VoD と関連付けると、Video Portal 視聴者メンバーに表示されるユーザ インターフェイスが自動的に変更されます。デフォルトでは、ビデオが左側に表示され、同期スライドが右側に表示されます。視聴者メンバーは、サイズ変更可能なポップアップ ウィンドウ内に表示したいスライドを選択できます。これは、デフォルトのサイズでは簡単にスライドの情報が読めない場合に便利な機能です。

ポップアップ ビューでは、視聴者メンバーは、すでに表示済みの過去のスライドをレビューするオプションも使用できます。過去のスライドを選択してフル サイズで表示したい場合は、視聴者メンバーは、右側のスクロール リスト内のサムネール プレビューをクリックします。

視聴者の質問への対応

ライブ イベント モジュールを使用するライセンスを購入した場合、Video Portal 視聴者メンバーは、この機能をイネーブルにしたライブ イベント中にテキスト ベースの質問を送信できます。

ライブ イベント中、視聴者メンバーが Video Portal の [Ask Question] ボタンをクリックすると、新しいウィンドウがオープンし、プレゼンタへの質問を入力して送信することができます。送信されたすべての質問は、まず DMM-VPM の [Question Manager] コンソールに表示され、そこで、ライブ イベントを監視できます。ライブ イベントの適当なタイミングで、モデレータは事前に選別された質問を、[Presenter] コンソールに送信するか口頭でプレゼンタに伝えることができます。そのあと、プレゼンタはライブ イベント中にリモートの視聴者メンバーからの質問に答えることができます。送信された質問は視聴者メンバーには見えず、また、視聴者メンバーの名前は、質問と関連付けられることも、ライブ イベント モデレータやプレゼンタに表示されることもありません。

Video Portal で見せるライブ イベントには何千もの視聴者メンバーがいる可能性があるため、送信された質問のすべてを、モデレータただ一人で事前に選別するのは困難であると考えられますが、[Question Manager] コンソールで同時に複数のモデレータが複数のインスタンスをオープンして管理できます。送信されたすべての質問は、イベントが終了した後にエクスポートでき、必要に応じて、別のサーバにパブリッシュすることもできます。

ライブ イベントのモデレータとプレゼンタは、Video Portal 視聴者メンバーからの質問の処理に、DMM-VPM の [Question Manager] コンソールを使用します。

具体的な内容は次のとおりです。

- [質問の調整 \(P.4-23\)](#)
- [質問への回答 \(P.4-25\)](#)

質問の調整

ライブ イベントのモデレータは、プレゼンタのために、質問を事前に選別できます。

手順

ステップ 1 グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。

ステップ 2 使用したい方式で、調整機能をオープンします。

方式 1	方式 2
<p>a. [Encoders] > [Encoder Dashboard] を選択します。</p> <p>b. エンコーダのリストで、ライブ イベントで使用するエンコーダのアイコン (📺) を探してクリックします。</p> <p>DMM-VPM は、クリックしたエンコーダ用のアドホック ストリーミング コントロールを表示します。</p> <p>c. [View Audience Questions] をクリックします。</p>	<p>a. [Video Portal] > [Programs] を選択します。</p> <p>b. [Active] タブを選択します。</p> <p>c. [Active Programs] ページで、関連するプログラムに対応する [Active Videos] (📺) ボタンをクリックします。</p> <p>d. [Active Videos] ページで、関連するビデオに対応する [Active Video Parts] (📺) ボタンをクリックします。</p> <p>e. [Active Video Parts] ページで、関連するライブ イベント ストリームに対応する [Modify] (📺) ボタンをクリックします。</p> <p>f. 表示されたページの一番下までスクロールし、[Review Audience Questions] をクリックします。</p>

ステップ 3 要件を満たす値を入力します。

関連項目

- [プログラム、ビデオ、およびビデオ パーツでの作業 \(P.4-10\)](#)
- [UI リファレンス : ライブ イベント調整の設定 \(P.4-24\)](#)

UI リファレンス：ライブ イベント調整の設定

表 4-7 では、ライブ イベントの調整の設定について説明しています。

ナビゲーションパス

- [Video Portal] > [Encoders] > [Encoder Dashboard] > [View Audience Questions]
- [Video Portal] > [Programs] > [Active] > [Active Videos] > [Active Video Parts] > [Modify] > [Review Audience Questions]

表 4-7 ライブ イベント調整の要素

要素	説明
[Questions] タブ	
視聴者メンバーが送信した質問のスクロール リストを示します。新しい質問が到着すると、リストはリアルタイムで更新されます。	
{Show Hide} Filters	<p>アクティブな質問のリストにテキスト スtring フィルタを設定し適用するオプションを表示または非表示を切り換えます。フィルタ タイプは、次の 2 種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Show Questions] : 入力したテキスト スtring に対するフィルタリングを、イネーブルにするには [On] を、ディセーブルにするには [Off] をクリックします。イネーブルにされている間は、そのテキスト スtring を含む質問だけを含まないようにリストを制限します。 • [Auto-remove Questions] : 入力したテキスト スtring に対するフィルタリングを、イネーブルにするには [On] を、ディセーブルにするには [Off] をクリックします。イネーブルにされている間は、そのテキスト スtring を含むすべての質問を除外するようにリストを制限します。 <p>(注) 両方のフィルタをイネーブルにし、同一のテキスト スtring を両方に使用されるように入力すると、フィルタは相互に排他的になります。この場合、すべての質問は、[Removed Questions] タブに移動されます。それらの質問をアクティブな質問のリストに復元するには、[Removed Questions] をクリックしてから、[Reactivate All] をクリックします。</p>
[Export Questions]	アクティブな質問のリスト内に表示されているすべての質問およびのその他のデータ (タイムスタンプなど) を含む区切りテキスト ファイルを作成します。ブラウザをヘルパー アプリケーションを使用するように正しく設定している場合には、ファイルは、スプレッドシートを編集する優先ソフトウェアで自動的にオープンします。
[Columns]	<p>質問に関する情報は、次のカラムにソートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Question] : 送信されたそのままの質問のリテラル テキスト。 • [Time Asked] : 質問が送信されたときの日付、時間、分、および秒。 • [Actions] : 対応する質問を調整するためのボタン。強調表示、[Presenter View] タブで送信、[Removed Questions] タブで削除できます。

[Removed Questions] タブ

プレゼンタから (少なくとも一時的に) 非表示にした質問のスクロール リストを表示します。[Questions] タブでは、手動で質問を追加したときや、フィルタによって自動でアクティブな質問のリストから質問が削除されたときに、リストが更新されます。

[Reactivate All]	すべての質問を、[Questions] タブのアクティブな質問のリストに戻します。
------------------	---

表 4-7 ライブ イベント調整の要素 (続き)

要素	説明
[Columns]	<p>質問に関する情報は、次のカラムにソートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Question] : 送信されたそのままの質問のリテラル テキスト。 [Time Asked] : 質問が送信されたときの日付、時間、分、および秒。 [Actions] : 対応する質問を調整するためのボタン。強調表示、[Presenter View] タブで送信、[Removed Questions] タブで削除できます。

質問への回答

ライブ イベントのプレゼンタは、モデレータが事前に選別した質問を見て答えることができます。

作業を開始する前に

- ライブ イベントのステージ クルーのモデレータやその他のメンバーは、回答を待っている質問のリストをプレゼンタが見られるように、すでに [Q&A Administration] ウィンドウをオープンしている可能性があります。まだオープンしていない場合は、「質問の調整」の手順 (P.4-23) のステップ 1 からステップ 2 を完了し、[Presenter's View] タブをクリックします。

手順

ステップ 1 [Presenter's View] タブで、モデレータが、回答しやすいように選別して編集した質問リストを見ることができます。このリストは、モデレータが手動で質問を追加するたびに更新されます。質問に関する情報は、次のカラムにソートされます。

- [Question] : 送信されたそのままの質問のリテラル テキスト。
- [Time Asked] : 質問が送信されたときの日付、時間、分、および秒。
- [Actions] : 対応する質問を [Removed Questions] タブの下に移動させるボタン。

再生リストの作成および作業

[Featured Playlist] タブで Video Portal 上のキー ビデオを表示することで、DMM-VPM は特殊なコンテンツ オファリングを強調するのに役立ちます。



ヒント

再生リストの承認は、追跡できます。承認プロセス ワークフローは、セキュリティ ポリシーの徹底には利用できませんが、組織でコミュニケーションをフォーマル化するには役立ちます。コンテンツの作成者は再生リストの承認を要求でき、指定アプルーバはその要求を承認または拒否できます。指定アプルーバには、DMM-VPM ユーザ タイプが Approver の人から選びます。指定アプルーバであっても、自分の要求を承認できません。承認および拒否は、再生リストが配信できるかどうかには無関係です。承認要求への対応については、「ビデオ パーツまたは再生リストの承認または拒否」(P.4-18) を参照してください。

作業を開始する前に

- 各再生リストには、視聴者に見せる前に少なくとも 1 つのビデオ パーツを含んでいなければなりません。

手順

-
- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Video Portal] > [Playlists] を選択します。
- [Playlists] ページでは、2 つのテーブルをトグルできますが、2 つは大抵の場合とてもよく似ていて、両方とも DMM-VPM 再生リストを示します。再生リストを、一方のテーブルからもう一方のテーブルへ移動させることができます。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
- [Active] をクリックして、[Active] テーブル内で、視聴者に見せることのできる再生リストすべてのリストを表示させます。これらの再生リストは、ディセーブルにしているという意味で、アクティブです。再生リストを作成したことがない場合、あるいはすべての再生リストをアーカイブした場合には、テーブルは空になります。
 - [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、一時的にディセーブルにした全再生リストを表示します。これらの再生リストは、視聴者が見つけることも表示することもできないという意味で、ディセーブルです。そのため、これらの再生リストの復元や削除を選択することも可能です。
- ステップ 4** 要件を満たす値を入力します。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。
-

関連項目

- [ライブ ストリームをキャプチャして、その出力ファイルをビデオ オンデマンドとしてパブリッシュする \(P.4-48\)](#)

UI リファレンス : 再生リスト用の設定

表 4-8 では、再生リストを設定する要素および設定値について説明しています。

ナビゲーション パス

[Video Portal] > [Playlists]

表 4-8 再生リスト設定の要素





要素	説明
[Add New Playlist] 	[Add New Playlist] ページを表示します。
[Archive Selected] 	選択した再生リストを、[Active] テーブルから [Archive] テーブルまで移動します。
[Delete Selected] 	[Delete Confirmation] ページを表示します。選択したアーカイブ済み再生リストを削除する方法については、そのページの指示を参照してください。
[Activate Selected] 	選択した再生リストを、[Archive] テーブルから [Active] テーブルまで移動します。

表 4-8 再生リスト設定の要素 (続き)

要素	説明
カラム	
[Untitled] チェックボックス	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> [Active] テーブルで、選択されたときにディセーブルする再生リストをマーキングする。 [Archive] テーブルで、ディセーブルした再生リストをマーキングし、選択したときに復元や削除を行えるようにする。
[Name]	再生リストのタイトル。対応する行には、[Edit] (✎) ボタンおよび [Preview] (📺) ボタンについての解説が表示されます。名前カラムの値は、デフォルトでは、DMM-VPM が行をソートする方法に基づいていますが、他の任意のカラムの見出しをクリックして、そのカラムの値で行を再ソートできます。[Edit] ボタンをクリックすると、DMM-VPM はページをロードし、対応する行に記載された再生リストのタイトルや説明などのメタデータが編集できます。[Preview] ボタンをクリックすると、Video Portal には、対応する行に記載された再生リストが表示されます。
[Publish Dates]	リリース日と廃止日の間の、再生リストが有効な日の範囲。
[Last Modified]	コンテンツ オブジェクトが最後に編集された日。
[Active Video Parts]	[Active Video Parts] (📺) ボタンおよび [Add New Video Part] (+) ボタンを表示します。[Active Video Parts] ボタンをクリックすると、DMM-VPM は、ビデオ パーツに対応する行が表示再生リストに追加できるページをロードします。またはその再生リストから削除するビデオ パーツにマーキングします。
[Current Status]	承認ステータスを示し、DMM-VPM ユーザからの再生リストの承認をアプルーバ権限で要求するのに役立ちます。対応する行で示されている再生リストの承認を要求するには、[Request Approval] をクリックし、ポップアップ ウィンドウのリストからアプルーバを選択してから、[Request Approval] と [Close] をクリックします。
[Deployment Choice]	対応する行に記載された再生リストが、配信用のデフォルトの再生リストかどうかを示します。

新規再生リストの追加 | 再生リストの更新

再生リストを定義するメタデータ属性。[Add New Playlist] をクリックした後か、再生リストの [Edit] ボタンをクリックした後、メタデータを入力するか選択します。

[Name]	この再生リストのタイトル。
[Status]	[Active] または [Inactive]。[Active] を選択すると、その再生リストは、実装し保存し配信した後、視聴者から見えるようになります。[Inactive] を選択すると、視聴者にはその再生リストが見えません。デフォルトは、[Active] です。
[Description]	有用な説明を入力します。この説明はオプションで、参考用です。
[Make this lineup default choice for deployments?]	[Yes] または [No]。デフォルトでこの再生リストをすべての配信に使用する場合は、[Yes] を選択します。それ以外の場合は、[No] を選択します。
[Release Date]	この日付けはオプションで、参考用です。
[End of Life Date]	この日付けはオプションで、参考用です。

新しいビデオ ポートの追加 | ビデオ パーツの変更

対応する行に記載された再生リストに追加するビデオ パーツを選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Video Part Link]	選択したビデオ パーツのタイトル。ビデオ パーツを選択した後、DMM-VPM によってタイトルが自動で入力されます。
-------------------	--

表 4-8 再生リスト設定の要素 (続き)

要素	説明
[Select Video Part]	再生リストに追加するビデオ パーツを選択できるポップアップ ウィンドウをオープンするか、再オープンします。[Program] リストからプログラムを選択してから、[Video] リストからビデオ パーツを選択します。ポップアップ ウィンドウは、自動でクローズします。誤ってビデオ パーツを選択した場合は、再度試してください。
[Play Order Position]	そのビデオ パーツの再生リスト ポジションを選択します。再生リスト内の他のビデオ パーツのポジションに関連します。
[Status]	[Active] または [Inactive]。デフォルトは、[Active] です。

コンテンツ カテゴリの作成および作業

プログラムを、トピックや題材、対象視聴者、関連性の高いエグゼクティブ、ビジネスの機能などの共通に持っている特性に応じて分類します。視聴者は Video Portal 上の対応するカテゴリを使用して、コンテンツを見つけたり表示します。プログラムのビデオおよびビデオ パーツは、カテゴリの関連付けを自動的に継承します。

Video Portal のプログラム ガイドには、分類済みのプログラムだけが記載されます。プログラムを配信しても、どのカテゴリにも関連付けていない場合、プログラム ガイドには表示されません。この場合、視聴者がプログラムに含まれるビデオを探して見るためには、キーワード サーチを実行するか、絶対 URL を使用します。ユーザ エクスペリエンスを向上させるためには、各プログラムを少なくとも 1 つのカテゴリに関連付けることをお勧めします。

カテゴリを作成して管理し、それらにプログラムを関連付けるには、[Categories] ページを使用します。

手順

ステップ 1 グローバル ナビゲーションから [Video Portal] を選択してから、[Video Portal] > [Categories] を選択します。

[Categories] ページでは、2 つのテーブルをトグルできますが、2 つは大抵の場合とてもよく似ていて、両方とも DMM-VPM コンテンツ カテゴリを示します。カテゴリを、一方のテーブルからもう一方のテーブルへ移動させることができます。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- [Active] をクリックして、[Active] テーブル内で、コンテンツ オブジェクトに関連付け可能で視聴者に見せることのできる、カテゴリすべてのリストを表示させます。これらのカテゴリは、ディセーブルにしていないという意味で、アクティブです。カテゴリを作成したことがない場合、あるいはすべてのカテゴリをアーカイブした場合には、テーブルは空になります。
- [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、一時的にディセーブルにした全カテゴリのリストを表示します。これらのカテゴリは、視聴者が見つけることも表示することもできず、どのコンテンツ オブジェクトにも関連付けることもできないという意味で、ディセーブルです。そのため、これらのカテゴリの復元や削除を選択することも可能です。

ステップ 3 要件を満たす値を入力します。

関連項目

- [UI リファレンス : カテゴリの設定 \(P.4-29\)](#)





UI リファレンス : カテゴリの設定

表 4-9 では、カテゴリに設定する要素および設定値について説明しています。



ナビゲーション パス

[Video Portal] > [Categories]

表 4-9 カテゴリ設定の要素

要素	説明
[Add New Category] 	[Add New Category] ページを表示します。
[Archive Selected] 	選択したカテゴリを、[Active] テーブルから [Archive] テーブルまで移動します。
[Delete Selected] 	[Delete Confirmation] ページを表示します。選択したアーカイブ済みカテゴリを削除する方法については、そのページの指示を参照してください。
[Activate Selected] 	選択したカテゴリを、[Archive] テーブルから [Active] テーブルまで移動します。

カラム

[Untitled] チェックボックス	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> [Active] テーブルで、選択されたときにディセーブルするカテゴリをマーキングする。 [Archive] テーブルで、ディセーブルしたカテゴリをマーキングし、選択したときに復元や削除を行えるようにする。
[Name]	対応する行に記載されたカテゴリの名前、および [Modify] () ボタン。[Name] カラムの値は、デフォルトでは、DMM-VPM が行をソートする方法に基づいていますが、他の任意のカラムの見出しをクリックして、そのカラムの値で行を再ソートできます。[Edit] ボタンをクリックすると、DMM-VPM はページをロードし、対応する行に記載されたカテゴリの名前や説明などのメタデータが編集できます。
[Last Modified]	カテゴリが最後に編集された日時。
[Date Added]	カテゴリが作成された日時。
[# of Programs]	[Active Associated Programs] () ボタンを表示します。このボタンをクリックすると、DMM-VPM は、対応する行に記載されたカテゴリにプログラムを関連付けたり、カテゴリから関連付け解除するプログラムをマーキングしたりできるページをロードします。

新しいカテゴリの追加 | カテゴリの変更

カテゴリを定義するメタデータ属性。[Add New Category] をクリックした後か、カテゴリの [Edit] ボタンをクリックした後、メタデータを入力するか選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Category Name]	このカテゴリの名前。このカテゴリ名は、視聴者がカテゴリ別にブラウズするために [Program Guide] タブを使用したときに、Video Portal 上に表示されます。
[Category Status]	[Active] または [Inactive]。[Active] を選択すると、そのカテゴリは視聴者から見えるようになり、プログラムをそのカテゴリに関連付けられます。[Inactive] を選択すると、そのカテゴリは視聴者から見え、プログラムをそのカテゴリに関連付けられません。デフォルトは、[Active] です。

表 4-9 カテゴリ設定の要素（続き）

要素	説明
[Associated Programs]	全プログラムが一覧表示され、どれでも選択してカテゴリに関連付けることも、選択解除してカテゴリからの関連付けを解除することもできます。各カテゴリは、少なくとも1つのプログラムと関連付ける必要がありますが、カテゴリと関連付けられるプログラムの数に上限はありません。カテゴリ割り当ては、いつでも追加したり削除したりできます。
[Category Description]	有用な説明を入力します。この説明はオプションで、参考用です。

インタースティシャルの作成および作業

DMM-VPM では、他に見せるものを何もスケジュールしていないときに、Video Portal で見せる短いセグメントのことを、インタースティシャルと言います。新しいインタースティシャルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** グローバルナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Video Portal] > [Interstitials] を選択します。
[Interstitials] ページでは、2つのテーブルをトグルできますが、2つは大抵の場合とてもよく似ていて、両方とも DMM-VPM インタースティシャルを示します。インタースティシャルを、一方のテーブルからもう一方のテーブルへ移動させることができます。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
 - [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、利用できるすべてのインタースティシャルのリストを表示します。これらのインタースティシャルは、ディセーブルにしているという意味で、アクティブです。インタースティシャルを作成したことがない場合、あるいはすべてのインタースティシャルをアーカイブした場合には、テーブルは空になります。
 - [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、一時的にディセーブルにした全インタースティシャルのリストを表示します。これらのインタースティシャルは、視聴者に表示されないという意味で、ディセーブルです。そのため、これらのインタースティシャルの復元や削除を選択することも可能です。
- ステップ 4** 要件を満たす値を入力します。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。

関連項目

- [UI リファレンス：インタースティシャルの設定 \(P.4-30\)](#)





UI リファレンス：インタースティシャルの設定

表 4-10 では、インタースティシャルを設定する要素および設定値について説明しています。


ナビゲーション パス

[Video Portal] > [Interstitials]

表 4-10 インタースティシャル設定の要素

要素	説明
[Add New Category] 	[Add New Interstitial] ページを表示します。
[Archive Selected] 	選択したインタースティシャルを、[Active] テーブルから [Archive] テーブルまで移動します。
[Delete Selected] 	[Delete Confirmation] ページを表示します。選択したアーカイブ済みインタースティシャルを削除する方法については、そのページの指示を参照してください。
[Activate Selected] 	選択したインタースティシャルを、[Archive] テーブルから [Active] テーブルまで移動します。

カラム

[Untitled] チェックボックス	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> [Active] テーブルで、選択されたときにディセーブルするインタースティシャルをマーキングする。 [Archive] テーブルで、ディセーブルしたインタースティシャルをマーキングし、選択したときに復元や削除を行えるようにする。
[Name]	[Modify] () ボタン、対応する行に記載されたインタースティシャルの名前、およびインタースティシャルに含まれるビデオ パーツの名前。このカラムのインタースティシャル名は、デフォルトでは、DMM-VPM が行をソートする方法に基づいていますが、[Length] カラムの見出しをクリックして、時間で行を再ソートできます。[Edit] ボタンをクリックすると、DMM-VPM はページをロードし、対応する行に記載されたインタースティシャルの名前や説明などのメタデータが編集できます。
[Length]	ビデオ パーツを停止するまで再生する秒数。

新しいインタースティシャルの追加 | インタースティシャルの変更

インタースティシャルの物理属性および論理属性。[Add New Interstitial] をクリックした後か、インタースティシャルの [Edit] ボタンをクリックした後、属性を入力するか選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Name]	このインタースティシャルの名前。最大 50 文字で入力します。
[File URL]	インタースティシャルとして使用するファイルのフル パスおよび名前。ファイルをアップロードした後、配信する前に使用されます。インタースティシャルを配信した後は、この値は、配信用の URL に自動的に変更されます。
[Upload new Interstitial graphical media file]	SWF または、非プログレッシブ JPEG ファイル (横 400 ピクセル、縦 120 ピクセル) をアップロードします。このファイルは、ボタンのような動作をします。視聴者がクリックすると、指定していたクリックスルー セグメントが、Video Portal によって表示されます。
[Click Through Segment]	インタースティシャルをクリックした人に Video Portal が表示するビデオ パーツを選択するには、[Select a Video Part] をクリックします。
[Play Duration]	ビデオ パーツを停止するまで再生する秒数。
説明	有用な説明を入力します。この説明はオプションで、参考用です。
[Status]	[Active] または [Inactive]。[Active] を選択すると、視聴者にインタースティシャルが表示されます。[Inactive] を選択すると、そのカテゴリは視聴者から見え、プログラムをそのカテゴリに関連付けられません。デフォルトは、[Active] です。

インタースティシャル シーケンスの作成および作業

新しいインタースティシャル シーケンスを作成できます。インタースティシャル シーケンスとは、他に何もスケジューリングしていなかったときに Video Portal が再生するインタースティシャルの順序付きリストのことです。

手順

- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Video Portal] > [Interstitial Sequences] を選択します。
- [Interstitial Sequences] ページでは、2 つのテーブルをトグルできますが、2 つは大抵の場合とてもよく似ていて、両方とも シーケンスのリストを示します。シーケンスを、一方のテーブルからもう一方のテーブルへ移動させることができます。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
- [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、利用できるすべてのシーケンスのリストを表示します。これらのシーケンスは、ディセーブルにしているという意味で、アクティブです。シーケンスを作成したことがない場合、あるいはすべてのシーケンスをアーカイブした場合には、テーブルは空になります。
 - [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、一時的にディセーブルにした全シーケンスのリストを表示します。これらのシーケンスは、視聴者に表示されないという意味で、ディセーブルです。そのため、これらのシーケンスの復元や削除を選択することも可能です。
- ステップ 4** 要件を満たす値を入力します。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。

関連項目

- [UI リファレンス：インタースティシャル シーケンスの設定 \(P.4-32\)](#)

UI リファレンス：インタースティシャル シーケンスの設定

表 4-11 では、インタースティシャル シーケンスを設定する要素および設定値について説明しています。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [Interstitial Sequences]

表 4-11 インタースティシャル シーケンス設定の要素








要素	説明
[Add New Interstitial Sequence] 	[Add New Interstitial Sequence] ページを表示します。
[Archive Selected] 	選択したシーケンスを、[Active] テーブルから [Archive] テーブルまで移動します。
[Delete Selected] 	[Delete Confirmation] ページを表示します。選択したアーカイブ済みシーケンスを削除する方法については、そのページの指示を参照してください。

表 4-11 インタースティシャル シーケンス設定の要素 (続き)

要素	説明
[Activate Selected] 	選択したシーケンスを、[Archive] テーブルから [Active] テーブルまで移動します。
カラム	
[Untitled] チェックボックス	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> [Active] テーブルで、選択されたときにディセーブルするシーケンスをマーキングする。 [Archive] テーブルで、ディセーブルしたシーケンスをマーキングし、選択したときに復元や削除を行えるようにする。
[Name]	[Modify] () ボタン、および対応する行に記載されたシーケンスの名前。名前カラムの値は、デフォルトでは、DMM-VPM が行をソートする方法に基づいていますが、他の任意のカラムの見出しをクリックして、そのカラムの値で行を再ソートできます。[Edit] ボタンをクリックすると、DMM-VPM はページをロードし、対応する行に記載されたシーケンスの名前や説明などのメタデータが編集できます。
[Date Added]	シーケンスが作成された日時。
[Last Modified]	シーケンスが最後に編集された日時。
[Active Interstitials]	[Active Interstitials] () ボタンおよび [Add New Interstitial] () ボタンを表示します。[Active Interstitials] ボタンをクリックすると、DMM-VPM は、インタースティシャルに対応する行に記載された再生リストに追加したり、再生リストから削除するためにインタースティシャルをマークできるページがロードされます。
[Deployment Choice]	対応する行に記載されたシーケンスが、配信用のデフォルトのシーケンスかどうかを示します。

新しいインタースティシャル シーケンスの追加 | インタースティシャル シーケンスの変更

シーケンスを定義するメタデータ属性。[Add New Interstitial Sequence] をクリックした後か、シーケンスの [Edit] ボタンをクリックした後、メタデータを入力するか選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Name]	このシーケンスの名前。最大 50 文字で入力します。
[Description]	有用な説明を入力します。説明を入力する必要があります。最大 2,000 文字で入力します。
[Status]	[Active] または [Inactive]。[Active] を選択すると、視聴者にシーケンスが表示されます。[Inactive] を選択すると、視聴者にはそのシーケンスが見えません。デフォルトは、[Active] です。
[Make this sequence default choice for deployments?]	[Yes] または [No]。Video Portal に他に表示するものがないときにデフォルトでこのシーケンスを使用する場合は、[Yes] を選択します。そうしない場合は、[No] を選択します。

ティックターの作成および使用

DMM-VPM では、Video Portal で視聴者に表示するスクロール テキストのことを、ティックターと呼びます。

手順

- ステップ 1 グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2 [Video Portal] > [Tickers] を選択します。

■ プログラム、ビデオ、ビデオ パーツ、およびラインナップの管理

[Tickers] ページでは、2 つのテーブルをトグルできますが、2 つは大抵の場合とてもよく似ていて、両方ともティックアーのリストを示します。ティックアーは、一方のテーブルからもう一方のテーブルへ移動できます。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- [Active] をクリックして、[Active] テーブルで、利用可能なすべてのティックアーのリストを表示します。これらのティックアーは、ディセーブルにしていないという意味で、アクティブです。ティックアーを作成したことがない場合、あるいはすべてのティックアーをアーカイブした場合には、テーブルは空になります。
- [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、一時的にディセーブルにした全ティックアーのリストを表示します。これらのティックアーは、視聴者に表示されないという意味で、ディセーブルです。そのため、これらのティックアーの復元や削除を選択することも可能です。

ステップ 4 要件を満たす値を入力します。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

関連項目

- [UI リファレンス : ティッカーの設定 \(P.4-34\)](#)





UI リファレンス : ティッカーの設定

表 4-12 では、ティックアーを設定する要素および設定値について説明しています。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [Tickers]


表 4-12 ティッカー設定の要素

要素	説明
[Clear Defaults]	Video Portal でのティックアーの再生を停止します。
[Add New Ticker] 	[Add New Ticker page] ページを表示します。
[Archive Selected] 	選択したティックアーを、[Active] テーブルから [Archive] テーブルまで移動します。
[Delete Selected] 	[Delete Confirmation] ページを表示します。選択したアーカイブ済みティックアーを削除する方法については、そのページの指示を参照してください。
[Activate Selected] 	選択したティックアーを、[Archive] テーブルから [Active] テーブルまで移動します。

カラム

[Untitled] チェックボックス	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • [Active] テーブルで、選択されたときにディセーブルするシーケンスをマーキングする。 • [Archive] テーブルで、ディセーブルしたシーケンスをマーキングし、選択したときに復元や削除を行えるようにする。
---------------------	--

表 4-12 ティッカー設定の要素 (続き)

要素	説明
[Name]	[Modify] () ボタン、および対応する行に記載されたティッカーの名前。名前カラムの値は、デフォルトでは、DMM-VPM が行をソートする方法に基づいていますが、他の任意のカラムの見出しをクリックして、そのカラムの値で行を再ソートできます。[Edit] ボタンをクリックすると、DMM-VPM はページをロードし、対応する行に記載されたティッカーが編集できます。
[Launch Date]	ティッカーを開始する日時。
[Expiration Date]	ティッカーを停止し、Video Portal に表示しないようにする日時。
[Deployment Choice]	対応する行に記載されたティッカーが、配信用のデフォルトのティッカーかどうかを示します。

新しいティッカーの追加 | ティッカーの変更

ティッカーの物理属性および論理属性。[Add New Ticker] をクリックした後か、ティッカーの [Edit] ボタンをクリックした後、属性を入力するか選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Ticker Name]	このティッカーの名前。最大 50 文字で入力します。
[Ticker Description]	有用な説明を入力します。説明を入力する必要があります。最大 2,000 文字で入力します。
[Ticker Text]	Video Portal 上でティッカーに表示させるテキストを入力します。最大 2,000 文字で入力します。入力したテキストは、Video Portal の一番下までスクロール表示されます。
[Ticker Status]	[Active] または [Inactive]。[Active] を選択すると、視聴者にティッカーが表示されます。[Inactive] を選択すると、視聴者にはそのティッカーが見えません。デフォルトは、[Active] です。
[Launch Date]	Video Portal でティッカーを開始する年月日を選択します。
[Make this ticker default choice for deployments?]	[Yes] または [No]。Video Portal でこのティッカーをデフォルトで表示する場合は、[Yes] を選択します。そうしない場合は、[No] を選択します。
[End of Life Date]	Video Portal でティッカーを停止する年月日を選択します。

Video Portal のカスタマイズ

DMM-VPM を使用して、視聴者が Video Portal を使用するときに表示されるユーザ インターフェイスの色を、制御およびカスタマイズできます。背景、ロゴ、ティッカー メッセージ、インタースティシャル、およびコントロールの配色を、カスタマイズできます。

手順

ステップ 1 グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。

ステップ 2 [Video Portal] > [User Interfaces] を選択します。

[User Interfaces] ページでは、2 つのテーブルをトグルできますが、2 つは大抵の場合とてもよく似ていて、両方ともユーザ インターフェイスのカスタマイズ用の名前付きセットを示します。セットは、一方のテーブルからもう一方のテーブルへ移動させることができます。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- [Active] をクリックして、[Active] テーブル内で利用可能な (ディセーブルしていない) すべてのカスタマイゼーション セットのリストを表示します。カスタマイゼーション セットを作成したことがない場合、あるいはすべてのセットをアーカイブした場合には、テーブルは空になります。

■ プログラム、ビデオ、ビデオ パーツ、およびラインナップの管理

- [Archive] をクリックして、[Archive] テーブル内で、一時的にディセーブルにした全カスタマイゼーションセットのリストを表示します。これらのカスタマイゼーションは、視聴者に表示されないという意味で、ディセーブルです。そのため、これらのカスタマイゼーション セットの復元や削除を選択することも可能です。

ステップ 4 要件を満たす値を入力します。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

関連項目

- [UI リファレンス : カスタマイゼーションの設定 \(P.4-36\)](#)





UI リファレンス : カスタマイゼーションの設定

表 4-13 では、Video Portal のカスタマイズ用に設定する要素および設定値について説明しています。

ナビゲーションパス

[Video Portal] > [User Interfaces]

表 4-13 Video Portal のカスタマイズの要素

要素	説明
[Add New Interface] 	このトピック内で説明している [Add New Interface] ページを表示します。
[Archive Selected] 	選択したカスタマイゼーションセットを、[Active] テーブルから [Archive] テーブルまで移動します。
[Delete Selected] 	[Delete Confirmation] ページを表示します。選択したアーカイブ済みカスタマイゼーションセットを削除する方法については、そのページの指示を参照してください。
[Activate Selected] 	選択したカスタマイゼーションセットを、[Archive] テーブルから [Active] テーブルまで移動します。

カラム



[Untitled] チェックボックス	次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • [Active] テーブルで、選択されたときにディセーブルするカスタマイゼーションセットをマーキングする。 • [Archive] テーブルで、ディセーブルしたカスタマイゼーションセットをマーキングし、選択したときに復元や削除を行えるようにする。
[Name]	[Modify] () ボタン、[Preview] () ボタン、および対応する行に記載されたカスタマイゼーションセットの名前。名前カラムの値は、デフォルトでは、DMM-VPM が行をソートする方法に基づいていますが、他の任意のカラムの見出しをクリックして、そのカラムの値で行を再ソートできます。[Edit] ボタンをクリックすると、DMM-VPM はページをロードし、対応する行に記載されたカスタマイゼーションセットが編集できます。[Preview] ボタンをクリックすると、Video Portal には、対応する行に記載されたカスタマイゼーションセットが表示されます。これによって、Video Portal に配信する前に、そのカスタマイゼーションで予想どおりの結果になるかどうかを確認できます。
[Date Added]	カスタマイゼーションセットが作成された日時。
[Last Modified]	カスタマイゼーションセットが最後に編集された日時。

表 4-13 Video Portal のカスタマイズの要素 (続き)

要素	説明
[Deployment Choice]	対応する行に記載されたカスタマイゼーションが、配信用のデフォルトの Video Portal ユーザ インターフェイスかどうかを示します。
新しいインターフェイスの追加 インターフェイスの変更 必須アイテム	
Video Portal ユーザ インターフェイスの追加または編集を定義する必要があるユーザ インターフェイス属性。[Add New Interface] をクリックした後か、カスタマイズされたユーザ インターフェイスのプロパティを表示した後、これらの値を入力するか選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。	
[Name]	このカスタマイゼーション セットの名前。最大 50 文字で入力します。
[Background Image]	背景イメージとして示す非プログレッシブ JPEG ファイル。横 720 ピクセル、縦 540 ピクセルで、強調すべきコンテンツそのものよりも目立ったり、コンテンツの見た目に影響したりしないようなファイルを選択します。新しいイメージをアップロードするには、[Upload New Background Image File] をクリックします。別の方法として、出荷時のデフォルト イメージや、以前にアップロードしたファイルを選択するには、[Existing Images] をクリックします。
[Video Portal Colors]	<p>Video Portal 上のパブリック ユーザ インターフェイス用の、16 進数の明度およびコントラスト スケール値。背景パネル、タブ テキスト、および一覧表示テキスト、さらにボタンやスライダに使用される、16 進数の明度およびコントラスト スケール値を入力します。それ以外の方法として、パレットから選択して、[Preview Colors] をクリックしてリアルタイムでプレビューを見ます。</p> <p>ヒント SWF ファイルでの 16 進数の明度は、他のファイル タイプでの 16 進数の明度と必ず一致するとは限りません。ブランディング戦略の一部のように、組織で正確な色の値を使用する場合は、意図した結果が得られるよう、SWF ファイルを若干調整する必要がある可能性があります。</p> <p>カラー ピッカー ポップアップ ウィンドウに含まれるダイナミック プレビュー ペインでは、カラーとコントラストの選択について、Video Portal で使用した場合に視聴者メンバーが実際に目にするのと同じ結果を、リアルタイムで表示します。カラーを選択し、Video Portal ユーザ インターフェイス サブコンポーネントの選択をするには、{[Panel Background Color Tab Text Color Content Listing Text Color Button and Slider Color]} をクリックします。次のようなオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色合いを選択するには、カラー スライダのハンドルを上下にドラッグします。カラー スライダとは縦方向の長方形エリアで、常に最上端から最下端まで赤のグラデーションになっています。別の方法として、RGB の強度に対応する 0 から 360 の数字を H フィールドに入力して、その範囲の値で可能な色合いの 1 つを表すこともできます。 カラーの範囲を選択するには、カラー スペースの中をクリックします。カラー スペースとはグラデーション状の正方形のエリアで、最下端は常に黒になっています。ここでは、横方向の x 軸は、(S フィールドに対応する) カラーの彩度を表し、縦方向の y 軸は、(V フィールドに対応する) カラーの明度の値を表します。別の方法として、カラーの彩度を調整するのに S フィールドに 0 から 100 の数字を入力し、カラーの明度の値を調整するのに V フィールドに 0 から 100 の数字を入力することもできます。 コントラスト用に数値の「強度係数」を選択するには、[Contrast] スライダを使用します。この強度係数は、前景照度と背景照度の差の等級に影響します。数値が大きいほどカラーの彩度は高くなり、数値が小さいほど彩度が低くなります。 <p>カラー ピッカー ポップアップ ウィンドウでの作業を保存し、自動で {[Add New Interface Modify Interface]} ページの対応するフィールドを実装または再実装するには、[Save] をクリックします。あるいは、[Cancel] をクリックして、カラー ピッカー ポップアップ ウィンドウでの作業を破棄することもできます。</p>
[Interface Idle Duration]	スケジュールされたショーが停止した後、Video Portal でインタースティシャルが (繰り返し) 再生される前に許可するアイドル時間 (秒)。

表 4-13 Video Portal のカスタマイズの要素 (続き)

要素	説明
[Make this template default choice for deployments?]	[Yes] または [No]。Video Portal でこのユーザ インターフェイス カスタマイゼーション セットをデフォルトで表示する場合は、[Yes] を選択します。そうしない場合は、[No] を選択します。
[Status]	[Active] または [Inactive]。[Active] を選択すると、視聴者に表示するカスタマイゼーション セットを選択できます。[Inactive] を選択すると、カスタマイゼーション セットを選択して視聴者に表示できません。デフォルトは、[Active] です。

新しいインターフェイスの追加 | インターフェイスの変更 (オプション アイテム)

Video Portal ユーザ インターフェイスの追加または編集の際に定義できる、オプションのユーザ インターフェイス属性。
[Add New Interface] をクリックした後か、カスタマイズされたユーザ インターフェイスのプロパティを表示した後、これらの値を入力するか選択します。[Save] をクリックして、作業を保存します。

[Description]	有用な説明を入力します。最大 2,000 文字で入力します。
[Header Logo]	Video Portal のロゴとして示す非プログレッシブ JPEG ファイル。選択するファイルは、横 470 ピクセル、縦 60 ピクセルでなければなりません。Video Portal 上のタブ付きのエリアはイメージの右下 4 分の 1 を覆って隠してしまうため、4 分割画面には重要なものを含めないことをお勧めします。ロゴの使用は、オプションです。次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> アップロードしたことのないロゴ ファイルをアップロードするには、[Upload new Header Logo file] をクリックします。 他のカスタマイゼーション セット用に以前にアップロードしたロゴ ファイルを再利用するには、[Existing Images] をクリックします。 そのロゴを使用する選択を確認するために [Check] をクリックすると、次のメッセージのうちの 1 つが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 「Field is blank」: パスが入力されていない。 「File Path Does Not Exist」: 無効なパスが入力されている。 「File Path exists」: 入力したファイル パスが、有効なファイルを正しくポイントしている。
[Interface Links]	Video Portal で表示される次の 3 つの Web リンク。 <ul style="list-style-type: none"> [Link Text]: クリック可能な表示テキスト。最大 17 文字を入力します。 [URL]: クリック可能テキスト用の HTTP URL。 その URL が有効かを確認するために [Check] をクリックすると、次のメッセージのうちの 1 つが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 「URL is blank」: URL が入力されていない。 「Server was not found」: 無効な URL が入力されている。 「URL exists」: 入力した URL が、有効なファイルを正しくポイントしている。

配信管理の設定の確認

コンテンツおよびデータに行った追加、更新、その他の変更は、すべて配信しなければなりません。配信は、即時に行うことも、前もって日時をスケジュールしておくことも可能です。スケジュールした配信は、キャンセルできます。



(注)

アクセス制限を変更したときは、ビデオ パーツを配信する必要はありません。これらの変更は、即時に有効になります。

配信をスケジュールすると、[Currently Scheduled Deployments] テーブルがリフレッシュされ、スケジュールした新しい配信が、スケジュールされた他の配信と共に日付順に表示されます。そのあと、DMM-VPM は、[Setup] タブで指定した配信ロケーションに、ジョブを配信します（「[配信のためのロケーション設定](#)」(P.4-6) を参照）。配信が終了すると、[Currently Scheduled Deployments] テーブルが再度リフレッシュされるため、配信に関する記述は含まれなくなります。

具体的な内容は次のとおりです。

- [イベント タイプ](#) (P.4-39)
- [新しい配信のスケジュールリング](#) (P.4-40)
- [イベント前のリストのスケジュールリング](#) (P.4-42)
- [ライブ イベントのスケジュールリング](#) (P.4-43)
- [イベント後のリストのスケジュールリング](#) (P.4-43)
- [オンデマンド配信のスケジュールリング](#) (P.4-44)
- [配信対象ビデオ パーツの URL](#) (P.4-44)

イベント タイプ

ライブ イベント オファリングは、オンデマンド オファリングとは次の点で異なります。

表 4-14 ライブ イベントとオンデマンド イベントの相違

ライブ イベント	<p>ライブ イベントは、固定された日時に開始および停止されるようにスケジュールされます。ライブ イベントが開始すると、遅れて接続した視聴者メンバーには進行中のイベントが表示され、それ以前の内容については表示できません。各視聴者メンバーには、他の視聴者メンバーと同じものが同時に表示されます。視聴者メンバーは、イベント開始前にライブ ストリームを見ることができず、巻き戻したり、スキップして先に進んだりすることもできません。ライブ イベントが停止すると、誰にも利用できなくなります。[Live Event] オプションおよび [Non-DME Live Event] オプションの詳細については、表 4-6 (P.4-12) の「新しいビデオ ポートの追加 ビデオ パーツの変更」の項を参照してください。</p> <p>ライブ イベントは、再生中に録画でき、そのあとすぐに、それを編集しアップロードして、オンデマンド アクセスに使用することができます。ライブ イベントには、プッシュとプル の 2 通りあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プッシュ : エンコーダは、ライブ ストリームをストリーミング サーバにプッシュします。 • プル : ストリーミング サーバは、ライブ ストリームをエンコーダからプルします。 <p>ヒント [Video Part] ページを使用して、イベント前イメージやイベント後イメージをアップロードできます。これらは、ライブ イベントの前後にビデオ フレームで表示されます。また、エンコーダで、ライブ イベントをストリーム配信すると同時にそれをファイルに保存することもできます。</p>
オンデマンド イベント	<p>オンデマンド イベントは、コンテンツの新しさや関係性に応じて、指定した日時に利用可能になるようにスケジュールしたり、指定した日数や時間の間、利用可能なままになるようスケジュールしたりできます。視聴者メンバーは、いつ見るかにかかわらず、イベントの先頭から開始できます。同様に、視聴者メンバーは、Video Portal でビデオ ナビゲーション コントロールが利用可能になっている限り、誰でもいつでも、巻き戻したり、前方へスキップしたり、イベントの別のパートにジャンプしたりできます。オンデマンド オファリングが利用可能であれば、視聴者メンバーはいつでもそれを見ることができます。オンデマンド イベントは、いつでもアーカイブできます。アーカイブした後は、視聴者は誰もそれを見ることができなくなります。</p>

関連項目

- [ライブ ストリームをキャプチャして、その出力ファイルをビデオ オンデマンドとしてパブリッシュする \(P.4-48\)](#)

新しい配信のスケジューリング

新しい配信は、スケジューリングしておくことができます。

作業を開始する前に

- ポップアップ ウィンドウをブロックするようにブラウザを設定している場合は、この段階で、ポップアップ ウィンドウを再度イネーブルにしてください。ブラウザでポップアップ ウィンドウをブロックしている場合は、この手順を完了できません。

手順

-
- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Video Portal] > [Deployments] を選択します。
- [Currently Scheduled Deployments] ページに、スケジューリングされている配信、およびキューに入っている配信が一覧表示されます (表 4-15 (P.4-42) を参照)。
- ステップ 3** [Schedule New Deployment] をクリックします。
- ページの最上部の凡例 **▼ Active** **▼ Inactive** **▼ Removed** は、変更ステータスに基づいて、DMM-VPM がリスト内のエンティティに適用するリアルタイム カラー コーディングを示します。
- [Active] : ステータスが **Active** に変更されたエンティティ。配信のあと、**Active** に分類されたすべてのエンティティは、Video Portal で見ることができます。
 - [Inactive] : ステータスが **Inactive** に変更されたエンティティ。配信のあと、**Inactive** に分類されているか削除されたすべてのエンティティは、Video Portal に表示されなくなります。
 - [Removed] : DMM-VPM から完全に削除されたエンティティ。
- ステップ 4** [Video Part Selection] エリアで、対応するビデオ パーツのチェックボックスをクリックします。
- DMM-VPM は、ステータスが **Active** にセットされている新規および変更されたすべてのビデオ パーツを、選択用に自動で一覧表示します。それぞれのビデオ パーツは、対応するビデオおよびプログラムと共に表示されます。**Active** の各ビデオ パーツに関連するすべてのアップロード ファイル、ファイル リファレンス、およびメタデータが、選択したビデオ パーツと共に配信されます。これらのファイルは、[Setup] タブで指定した配信ロケーションに配信されます。
- ステップ 5** [Deployment] エリアの [Additional Items Included] で、配信によってパブリッシュされるメタデータの変更を確認してください。
- 次のエンティティは、[Metadata Changes] で特定されます。
- Categories : ステータスが変更したか削除されたすべてのカテゴリ
 - Programs : ステータスが変更したか削除されたすべてのプログラム
 - Videos : ステータスが変更したか削除されたすべてのビデオ
- ステップ 6** [Global Options] エリアの次のリストから、オプションを選択します。
- [Featured Playlist] : Video Portal でパブリッシュする再生リストを選択します。
- このリストは、すべての [Active Featured Playlists] を [Featured Playlist Name] のアルファベット順で、デフォルトでは [Default Featured Playlist] 付きで表示します。Video Portal では、表示できる [Featured Playlist] は常に 1 つだけです。

- **[User Interface] :** Video Portal で使用するカスタマイゼーションセットを選択します。
このアルファベット順のリストには、すべての **Active** ユーザ インターフェイス カスタマイゼーションセットが、デフォルトではデフォルトのカスタマイゼーションセットと共に表示されます。Video Portal では表示できるユーザ インターフェイスは常に 1 つだけです。
- **Ticker :** Video Portal でパブリッシュするティッカーを選択します。
このリストは、すべての **Active** ティッカーを、名前アルファベット順で、デフォルトではデフォルト ティッカー付きで表示します。ティッカーを非表示にするには、**[Don't Show a Ticker]** をクリックします。Video Portal では、一度に 1 つのティッカーしか使用できません。
- **Interstitial Sequence :** Video Portal でパブリッシュするシーケンスを選択します。
このリストは、すべての **Active Interstitial Sequences** を **[Interstitial Sequence Name]** のアルファベット順で、デフォルトでは **Default Interstitial Sequence** 付きで表示します。Video Portal では表示できる **Interstitial Sequence** は常に 1 つだけです。

ステップ 7 **[Deployment Time]** エリアで配信の日時を選択するか、**[Schedule Immediately]** チェックボックスをクリックします。スケジュール配信を選択すると、デフォルトの日は、当日から 7 日後です。次の情報を忘れないようにしてください。

- 関連する時間帯は、DMM アプライアンスをセットアップしたときに指定したものです。管理者が DMM アプライアンスをセットアップしたために配信ロケーションではどの時間帯が有効なのかを類推できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。
- ライブ オンライン イベントを成功させるには、3 つまたは 4 つの個別の配信を、次の順序どおりに完了する必要があります。
 1. 次回のライブ イベントについて Video Portal 視聴者メンバーに伝えるため、イベント前のリストを準備します。
 2. 実際のライブ イベント オファリングを準備します。
 3. ライブ イベントが完了してすでに利用できなくなっている Video Portal 視聴者メンバーに伝えるため、イベント後のリストを準備します。
 4. (任意) ライブ イベントの録画バージョンであるオンデマンド オファリングを準備します。

ステップ 8 作業を保存して、配信をスケジュールするには、**[Create Deployment]** をクリックします。

関連項目

- [再生リストの作成および作業 \(P.4-25\)](#)
- [インタースティシャル シーケンスの作成および作業 \(P.4-32\)](#)
- [ティッカーの作成および使用 \(P.4-33\)](#)
- [Video Portal のカスタマイズ \(P.4-35\)](#)
- [イベント前のリストのスケジュールリング \(P.4-42\)](#)
- [ライブ イベントのスケジュールリング \(P.4-43\)](#)
- [イベント後のリストのスケジュールリング \(P.4-43\)](#)
- [オンデマンド配信のスケジュールリング \(P.4-44\)](#)

UI リファレンス : 配信用の設定

ナビゲーション パス

[Video Portal] > [Deployments]

表 4-15 配信スケジュールリングの要素

要素	説明
[Schedule New Deployments]	新しい配信をスケジュールします。
カラム	
[Scheduled Deployment]	既存の配信がスケジュールされている日時に、一番早い配信から、日付順で一覧表示されます。
[Date Added]	既存の配信が DMM-VPM に追加された日時。
[Cancel]	配信のキャンセル。

イベント前のリストのスケジュールリング

イベント前のリストは、スケジュールできます。対象者を限定した電子メールメッセージ、または Web サイトを使用して、ライブ イベントを事前に通知することをお勧めします。用意する通知には、たとえば、イベント日時、題材、話者、およびモデレータなどが記載可能です。通知から、Video Portal 上のイベント前一覧表示に直接リンクすることもできます。

作業を開始する前に

- ビデオ パーツ メタデータがイベント前のリストを表示するために適切に設定されているか確認してください。
- ポップアップ ウィンドウをブロックするようにブラウザを設定している場合は、この段階で、ポップアップ ウィンドウを再度イネーブルにしてください。ブラウザでポップアップ ウィンドウをブロックしている場合は、この手順を完了できません。
- 「新しい配信のスケジュールリング」の手順 (P.4-40) のステップ 1 ~ 6 を完了します。

手順

- ステップ 1** イベント前のリストを Video Portal で利用できるようにする日時を、[Deployment Time] エリアで選択します。配信日は、デフォルトで当日になっています。



(注) 関連する時間帯は、DMM アプライアンスをセットアップしたときに指定したものです。管理者が DMM アプライアンスをセットアップしたために配信ロケーションではどの時間帯が有効なのかが類推できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

- ステップ 2** 配信をスケジュールするには、[Create Deployment] をクリックします。

ライブ イベントのスケジューリング

ライブ イベントは、スケジュールできます。

作業を開始する前に

- ビデオ パーツ メタデータがイベント前のリストを表示するために適切に設定されているか確認してください。
- ポップアップ ウィンドウをブロックするようにブラウザを設定している場合は、この段階で、ポップアップ ウィンドウを再度イネーブルにしてください。ブラウザでポップアップ ウィンドウをブロックしている場合は、この手順を完了できません。
- 「[新しい配信のスケジューリング](#)」の手順 (P.4-40) のステップ 1 ~ 6 を完了します。

手順

- ステップ 1** ライブ イベントを Video Portal で利用できるようにする日時を、[Deployment Time] エリアで選択します。デフォルトの日は、当日から 7 日後です。



(注) 関連する時間帯は、DMM アプライアンスをセットアップしたときに指定したものです。管理者が DMM アプライアンスをセットアップしたために配信ロケーションではどの時間帯が有効なのかを類推できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。



ヒント ライブ イベントの 10 ~ 15 分前になったら、カウントダウンを Video Portal に表示し、実際に開始する時間になったら、そのカウントダウンを音声ビデオ ストリームに切り替えることをお勧めします。

- ステップ 2** 配信をスケジュールするには、[Create Deployment] をクリックします。

イベント後のリストのスケジューリング

イベント後のリストを、スケジュールしておくことができます。

作業を開始する前に

- ビデオ パーツ メタデータがイベント後のリストに適切に設定されているか確認してください。
- ポップアップ ウィンドウをブロックするようにブラウザを設定している場合は、この段階で、ポップアップ ウィンドウを再度イネーブルにしてください。ブラウザでポップアップ ウィンドウをブロックしている場合は、この手順を完了できません。
- 「[新しい配信のスケジューリング](#)」の手順 (P.4-40) のステップ 1 ~ 6 を完了します。

手順

- ステップ 1** イベント後のリストを Video Portal で利用できるようにする日時を、[Deployment Time] エリアで選択します。デフォルトの日は、当日から 7 日後です。



(注) 関連する時間帯は、DMM アプライアンスをセットアップしたときに指定したものです。管理者が DMM アプライアンスをセットアップしたために配信ロケーションではどの時間帯が有効なのかが類推できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

- ステップ 2** 配信をスケジュールするには、[Create Deployment] をクリックします。

オンデマンド配信のスケジューリング

オンデマンド配信は、スケジュールしておくことができます。

作業を開始する前に

- ビデオ パーツ メタデータがオンデマンド配信用に適切に設定されているか確認してください。
- ポップアップ ウィンドウをブロックするようにブラウザを設定している場合は、この段階で、ポップアップ ウィンドウを再度イネーブルにしてください。ブラウザでポップアップ ウィンドウをブロックしている場合は、この手順を完了できません。
- 「新しい配信のスケジューリング」の手順 (P.4-40) のステップ 1 ~ 6 を完了します。

手順

- ステップ 1** オンデマンド配信を Video Portal で利用できるようにする日時を、[Deployment Time] エリアで選択します。デフォルトの日は、当日から 7 日後です。







(注) 関連する時間帯は、DMM アプライアンスをセットアップしたときに指定したものです。管理者が DMM アプライアンスをセットアップしたために配信ロケーションではどの時間帯が有効なのかが類推できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

- ステップ 2** 配信をスケジュールするには、[Create Deployment] をクリックします。

配信対象ビデオ パーツの URL

ビデオ パーツ配信に成功した後は、そのビデオ パーツを見つけるために Video Portal を検索する必要はありません。DMM-VPM がそのビデオ パーツに直接リンクしているため、便利です。そのリンクは、特定のメディア形式用ではありません。Video Portal がどの形式で視聴者メンバーに配信すればよいかを、配信先のシステム設定に応じて自動で判別します。

手順

-
- ステップ 1** [Video Portal] > [Programs] を選択します。
- ステップ 2** 関連するプログラムを記載している行を見つけ、その行の [Active Videos] () をクリックします。
- ステップ 3** 関連するビデオを記載している行を見つけ、その行の [Active Video Parts] () をクリックします。
- ステップ 4** 関連するビデオ パーツを記載している行を見つけ、次のようにします。
- ビデオ パーツを再生するには、その行の [Preview] () をクリックします。
 - そのビデオ パーツの実際の URL を知るには、その行の [Modify] () をクリックしてから、[Show Direct Portal Link] をクリックします。
-

デジタルメディアエンコーダの管理

管理者や設定マネージャは、[Encoders] タブの機能を使用して、Cisco Digital Media Encoders を管理します。

- [DMM-VPM へのエンコーダの追加 \(P.4-45\)](#)
- [ストリームのパブリッシュ機能のテスト \(P.4-47\)](#)
- [ライブストリームをキャプチャして、その出力ファイルをビデオ オンデマンドとしてパブリッシュする \(P.4-48\)](#)
- [プッシュ設定の管理 \(P.4-49\)](#)
- [符号化フォーマットの作成および作業 \(P.4-49\)](#)
- [コード変換ジョブの管理 \(P.4-50\)](#)

DMM-VPM へのエンコーダの追加

DMM-VPM には、エンコーダを追加できます。

手順

-
- ステップ 1** そのエンコーダの資料に記載された手順に従って、エンコーダをセットアップし接続します。
- ステップ 2** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。

- ステップ 3** そのエンコーダがストリームを、ストリーミングサーバにプッシュするのか、ストリーミングサーバがストリームを、エンコーダからプルするのかを判別してから、必要に応じて、表 4-16 のステップを完了します。

表 4-16 プッシュおよびプルの手順

ストリームタイプ	手順
プッシュ	プッシュ設定では、エンコーダはストリーミングサーバにストリームをプッシュします。プッシュ設定は、Windows Media ストリームにだけ適用されます。
	ステップ 1 [Encoders] > [Push Configurations] を選択します。
	ステップ 2 ストリーミングサーバ URL およびポート番号など、必要な値を入力します。
	ステップ 3 [Save] をクリックします。
プル	プル設定では、ストリーミングサーバはエンコーダからストリームをプルします。
	ステップ 1 [Encoders] > [Encoders and Pull Configurations] を選択します。
	ステップ 2 エンコーダの IP アドレスや DNS 解決可能ホスト名が不明な場合は、エンコーダ前面パネルに移動し、[Menu] > [Setup System] > [Network] > [100 Mbit (または 1,000 Mbit)] > [View Settings] > [IP Address(es)] を選択します。
	ステップ 3 エンコーダの IP アドレスまたはホスト名を [Encoder IP Address/Hostname] フィールドに入力します。6000 ~ 7000 の範囲のポート番号を使用することをお勧めします。
	ステップ 4 [Discover Encoder] をクリックします。ディスクバリ プロセスが終了するまで、ボタンはカラーが変わってアニメーション表示になります。
	ステップ 5 エンコーダ名および説明を、それぞれのフィールドに入力します。たとえば、エンコーダのオーナーやロケーション、目的の特定や説明に使用したり、エンコーダ シャーシのステッカーからシリアル番号テキストそのものの値を入力するのに使用することもできます。
	ステップ 6 [Default Encoder Input Settings] エリアのオプションを選択し、もっとも頻繁に使用するビデオ入力、音声入力、およびビデオ入力の標準設定を選択します。
	ステップ 7 ライブ イベントをパブリッシュするもっとも一般的な方式として、[Push] または [Pull] を選択し、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> [Push] を選択した場合は、[Default Push Configuration] リストから、このエンコーダ用のデフォルトのプッシュ設定を示すオプションを選択します。別の方法として、[Add New Push Options Here] をクリックします。 [Pull] を選択した場合は、[Add a Pull Configuration] をクリックして、このエンコーダ用にストリーミングサーバのプル設定を追加します。 <p>[Pull] を選択すると、DMM-VPM は自動的に「test only (encoder-direct, port 6990)」という名前のプル設定を作成し、それを使用してそのエンコーダから直接配信するストリームをテストできます。</p>
ステップ 8 [Save this Encoder] をクリックして、選択を保存します。すると、「Successfully saved '{Encoder Name}」 というメッセージを含む緑色のボックスがページの最上部に表示されます。	

関連項目

- プッシュ設定の管理 (P.4-49)

ストリームのパブリッシュ機能のテスト

DMM-VPM を使用すると、エンコーダがストリームをパブリッシュできるかどうかをテストできます。

手順

- ステップ 1** エンコーダ ダッシュボードを表示するには、グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Encoders] タブを選択します。
- ステップ 3** エンコーダ選択ツリーで、テストするエンコーダを探して [Expand Encoder] (🔍) をクリックし、そのエンコーダ用のアドホック ストリーミング コントロールを表示して、[Encoder Setup] をクリックします。
- ステップ 4** [Video Format] から、テストするビット レートを選択し、[Publish as a Streaming Video] チェックボックスをクリックします。
- ステップ 5** [Push] パブリッシュ設定または [Pull] パブリッシュ設定を選択します。



ヒント エンコーダから直接ストリームをテストするには、[test only (encoder-direct, port 6990)] プル設定を選択します。

- ステップ 6** ライブ ビデオ ソースがエンコーダに接続されているのを確認したら、次のリストから、ビデオ ソースにマッチするオプションを選択します。
 - [Video Input]
 - [Audio Input]
 - [Video Input Standard]
- ステップ 7** [Start Encoder] をクリックします。



ヒント [Start Encoder] オプションが表示されていない場合は、そのライブ イベント ビデオ パーツの [Stop Event] の日付を調べてください。


ボタンはアニメーション表示になり、エンコーダが起動するまでそのアニメーションが続きます。10 ~ 25 秒の範囲の遅延は、正常です。

- ステップ 8** エンコーダが起動した後、[Encoder Setup] ウィンドウの [Close] をクリックします。
- ステップ 9** 次のいずれか、または両方を実行して、ビデオ ストリームをテストします。
 - [View Live Video] をクリックします。ポップアップ ウィンドウで、現在のライブ ストリームが再生されます。
 - ビデオ ストリームを、定期的に更新されるスタティック イメージとしてテストするには、[Click to start preview] をクリックします。ストリーミング サーバからは独立して、エンコーダ サーバが直接スタティック イメージを提供します。
- ステップ 10** [Stop] をクリックします。

ライブストリームをキャプチャして、その出力ファイルをビデオ オンデマンドとしてパブリッシュする

エンコーダは、ライブストリームをキャプチャしてファイルとして保存でき、そのファイルはビデオ オンデマンドとしてパブリッシュできます。

手順

-
- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Encoders] タブをクリックして、エンコーダ ダッシュボードを表示します。
- ステップ 3** エンコーダ選択ツリーで、使用するエンコーダを探して [Expand Encoder] () をクリックし、そのエンコーダ用のアドホック ストリーミングコントロールを表示して、[Encoder Setup] をクリックします。
- ステップ 4** [Store as File] チェックボックスをチェックしてから、保存されたファイルのファイル名を入力します。
- ステップ 5** ライブ ビデオ ソースがエンコーダに接続されているのを確認し、次のリストから、ビデオ ソースにマッチするオプションを選択します。
- [Video Input]
 - [Audio Input]
 - [Video Input Standard]
- ステップ 6** [Start Encoder] をクリックします。
- ボタンはアニメーション表示になり、エンコーダが起動するまでそのアニメーションが続きます。10 ~ 25 秒の範囲の遅延は、正常です。
- ステップ 7** エンコーダが起動した後、[Encoder Setup] ウィンドウの [Close] をクリックします。
- ステップ 8** ストリームから、作成している出力ファイルへのビデオの追加を停止する準備ができれば、[Stop Encoder] をクリックします。



(注) VoD ファイルは、[Start] ボタンおよび [Stop] ボタンをクリックするたびに、上書きされます。

-
- ステップ 9** エンコーダから出力ファイルを取得するには、Web ブラウザで **ftp://<エンコーダのIP アドレス>/AVFiles/Out** をポイントします。
- ステップ 10** ディレクトリ一覧表示のファイル名を右クリックし、ファイルをダウンロードするオプションを選択します。
- ステップ 11** (任意) サードパーティ ソフトウェアを使用して、ファイルを編集します。



(注) サードパーティ ソフトウェアを使用して VoD ファイルを編集すると、ライブ イベント中に作成されたスライド同期コマンドは消去され、スライドは VoD 用に同期されなくなります。

-
- ステップ 12** ダウンロードされた出力ファイルを Video Portal 視聴者にビデオ オンデマンド オfferingとして配信できるようにするには、あらかじめ VoD ビデオ パーツとして配信する必要があります。

関連項目

- プログラム、ビデオ、およびビデオ パーツでの作業 (P.4-10)
- オンデマンド配信のスケジューリング (P.4-44)

プッシュ設定の管理

プッシュ設定は管理可能で、Windows Media ストリームにだけ適用されます。

手順

- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 2** [Encoders] > [Push Configurations] を選択します。
- ステップ 3** プッシュ設定名および説明を、それぞれのフィールドに入力します。



ヒント ここで入力するプッシュ設定名は、エンコーダを起動する前にリストから選択できるオプションになります。

- ステップ 4** その他の値を入力し、確認します。
 - [Format] : このリリースでは、サポート オプションは、Windows Media だけです。
 - [Streaming Server Base URL] : ストリーミング サーバのベース URL およびポート番号を入力します。
 - [Name of Publishing Point] : パブリッシング ポイントの名前を入力します。
 - [Full Stream URL] : URL が、パブリッシング ポイントとして有効な URL であるかを確認します。
 - [User ID] および [Password] : (任意) 認証が必要な場合は、ユーザ名とパスワードを入力して、ストリームをストリーミング サーバにプッシュします。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。

符号化フォーマットの作成および作業

符号化フォーマットは、メディア タイプとビデオの大きさの特定の組み合わせを指定したり、ビデオ帯域幅の使用量およびビデオの質を制限したりする、設定値の集合です。

DMM-VPM は、Video Portal 用の推奨符号化フォーマットで事前に設定されています。DMM-VPM を最初に起動して使用する際、[Encoding Formats] リスト内で、これらの事前定義された推奨フォーマットは、それぞれの名前の後ろに「default」という語が追加されているために他と区別できます。他の符号化フォーマットをデフォルトとして選択した場合、この「default」というラベルは、Cisco が定義した符号化フォーマットという意味を持たなくなります。

デフォルトの符号化フォーマットは、各サポート メディア タイプに 1 つずつ選択できます。たとえば、Windows Media 用のデフォルトとして 1 つの符号化フォーマットを選択し、Flash Video 用のデフォルトとして別の符号化フォーマットを選択できます。

符号化フォーマットは追加したり編集できます。

手順

- ステップ 1** グローバル ナビゲーションから、[Video Portal] を選択します。

ステップ 2 [Encoders] > [Encoding Formats] を選択し、次のいずれかを実行します。

- 新しい符号化フォーマットを作成し定義するため、[Add a new Encoding Format] をクリックします。
- 保存した符号化フォーマットを編集するため、リスト内の名前をクリックします。

ステップ 3 必要な値を入力または選択して、符号化フォーマットを定義します。

- [Encoding Format Name] : この符号化フォーマットに一意で意味のある名前を入力します。
- [Profile Description] : 説明を入力します。
- [Set as a Default Format] : [{Add New | Modify} Video Part] ページで、[Use Default Streaming Settings] オプションを選択したときに、DMM-VPM でこの符号化フォーマットを自動的に使用する場合、チェックボックスをチェックします。
- [Format] : この符号化フォーマットが使用するメディアフォーマットを、対応するラジオ ボタンをクリックして選択します。
- [Dimensions] : リストからオプションを選択するか、[Custom] を選択して、リストに含まれない大きさを使用します。
- [Pixel Proportion] : ほとんどのアプリケーションでは、[Standard (square pixel)] が正しい選択となります。
- [Audio Capture {On | Off}] : 音声キャプチャをイネーブルまたはディセーブルにします。
- [Windows Media Capture Profiles] : 帯域幅の使用を制限するオプションを選択します。

ステップ 4 [Save] をクリックします。

コード変換ジョブの管理

コード変換は、あるコーデックを使用するデジタルメディアファイルから、別のコーデックを使用するデジタルメディアファイルを派生する処理です。ソースファイルは変更されたり破棄されたりしません。コーデックは通常は損失があるため、出力ファイルの正確さがソースファイルの正確さほど高くない場合があります。

エンコーダでは、AVI ファイルと MPEG2 ファイルを Windows Media ファイルにコード変換できます。コード変換ジョブを管理するには、DMM-VPM が使用できます。コード変換ジョブは、エンコーダの他のタスク（ライブ イベントのストリーミングやライブ ストリームのファイルへの保存など）と同時に実行されないようにスケジューリングすることをお勧めします。コード変換ジョブは、どのコーデックを使用するかなどの複数の要因によって、時間の長さが変わります。ソースファイルの時間よりも長くかかる場合があります。

手順

ステップ 1 ソースファイルをエンコーダにコピーする。

- a. キーボード、マウス、およびモニタをエンコーダに接続します。
- b. ファイルを USB 2.0 で接続されたハードドライブまたはフラッシュドライブに追加します。
- c. Windows エクスプローラを使用して、ソースファイルを USB ドライブから **D:\AVFiles\In** にコピーします。

- ステップ 2** DMM-VPM にログインし、任意のページの右端上部にあるタイトルのないリストから、[Video Portal] を選択します。
- ステップ 3** [Encoders] > [Transcoding] を選択し、[Add a New Transcoding Task] をクリックします。
- ステップ 4** 必要な値を入力または選択して、コード変換ジョブを定義します。
- [Transcoding Task Name] : 一意で意味のある名前を入力します。
 - [Encoder Name] : ソース ファイルをコード変換するエンコーダを選択します。
 - [Start Date/Time] : コード変換を開始させる日時を選択します。
 - [Input Encoding Format] : ソース ファイルが使用するメディア フォーマット (AVI または MPEG2) を選択します。
 - [Input Directory Path] : [Input - Local Encoder Drive] を選択します。
 - [Edit] : 入力ディレクトリ パスを修正します。
 - [Clone] : 入力ディレクトリ パスをコピーして、修正したりリストに追加できるようにします。
 - [Add a Path] : 新しい入力ディレクトリ パスをリストに追加します。
 - [Input File Name] : ソース ファイル名を入力します。パスを含まないようにしてください。
 - [Output Encoding Format] : タイトルに「transcode」という語を含むフォーマットを選択します。
 - [Output Directory Path] : [Output - Local Encoder Drive] を選択します。
 - [Output File Name] : 出力ファイル名を入力します。拡張子には WMV を使用しなければなりません。パスを含まないようにしてください。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。



ヒント リストで、コード変換ジョブの名前の隣にある、色分けされたアイコンは、そのステータスを追跡するのに役立ちます。アイコンは、青 (スケジュール済みまたは延期)、アニメーション付きの緑 (進行中)、無地の緑 (完了済み)、または赤 (エラー) です。詳細については、アイコンの上にマウスを合わせてください。

- ステップ 6** エンコーダから出力ファイルをコピーするには、次のいずれかを実行します。
- キーボード、マウス、およびモニタをエンコーダに接続する場合は、Windows エクスプローラを使用して出力ファイルを **D:\AVFiles\Out** からコピーします。
 - Web ブラウザで **ftp://<エンコーダの IP アドレス>/AVFiles/Out** をポイントして、ディレクトリ一覧表示のファイル名をクリックし、ファイルをダウンロードするオプションを選択します。


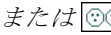
ライブ イベントのセットアップのワークフロー

この項には、ライブ イベントをセットアップするのに役立つ次のワークフロー チェックリストを記載します。

- [DME 1000 または DME 2000 を使用するライブ イベントのセットアップ \(P.4-52\)](#)
- [DME ライブ イベントのスケジュール時間の修正 \(P.4-54\)](#)
- [サードパーティのライブ ストリームを使用するライブ イベントのセットアップ \(P.4-55\)](#)

DME 1000 または DME 2000 を使用するライブ イベントのセットアップ

次のチェックリストを使用して、ライブ イベントをセットアップするために DME 1000 または DME 2000 を使用するのに必要なタスクを示します。

✓	作業
☐	<p>1. DMM-VPM にライブ イベントを追加し、次のステップに沿って必要な値を入力してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> グローバルナビゲーションから、[Video Portal] を選択し、[Video Portal] タブをクリックします。 ライブ イベントを含むプログラムおよびビデオを作成または編集します。 [Add New Video Part] ページで、次の値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [Type of Video] : [Live Event] を選択します。ビデオフォーマットとして Windows Media を使用する必要があります。 [Encoder] : 使用するエンコーダをリストから選択し、次のいずれかを実行します。以前に関連エンコーダ用にデフォルトのストリーミング設定を設定した場合で、それらのデフォルト設定がこのイベントに適切であれば、[Use Default Streaming Settings] をクリックします。デフォルト設定のいずれかが、このイベントに適切でないか、デフォルト設定を関連エンコーダ用に設定していない場合は、[Advanced Settings] をクリックしてから選択し、このストリーム用の設定を定義する値を入力します。 <p>[Encoding Format] : ライブストリームの符号化またはコード変換に使用する方式をリストから選択します。</p> <p>[DME 2000 Input Channel] :  A または  B をクリックします。</p> <p>[Publish via Push] : エンコーダがライブストリームをストリーミングサーバにプッシュすべきかどうかを選択します。</p> <p>[Publish via Pull] : ストリーミングサーバがエンコーダからライブストリームをプルすべきかどうかを選択します。</p> <p>[Video Input] : リストから、[Composite] または [SVideo] のいずれかを選択します。</p> <p>[Audio Input] : ライブストリームで平衡音声または不平衡音声を使用するオプションを選択します。</p> <p>[Video Input Standard] : 使用する国の標準および使用する機器を、リストから選択します。</p> <p>[Store as a File] : チェックボックスをチェックして、自動アーカイブをイネーブルにするか、チェックボックスのチェックを解除して、自動アーカイブをディセーブルにします。</p> <p>[Storage Bookmark] および [File Name] : あとでイベントを VoD として配信するには、リストからファイルを保存するエンコーダのロケーションを選択し、.wmv をファイルタイプとしたファイル名を入力します。</p> [Play Order in Video] : ビデオのどの場所でもこのビデオパーツを見せるかを、ファイルから選択します。 [Release Date/Time] および [End of Life Date/Time] : 表示どおりの形式で日付を入力するか、[Show Calendar] をクリックしてカレンダーから日付を選択します。それから、時間、分、および AM または PM を選択します。[End of Life Date/Time] の値は、明示的に入力しなければなりません。DMS では、この値は [Release Date/Time] の値から自動で取得されません。[End of Life Date/Time] の値を入力しない場合、ライブイベントは発生しません。 [Duration] : ライブイベントの所要時間を、開始時間と停止時間に基づいて表します。

✓	作業
☐	<p>2. (任意) [Add New Video Part] ページで、追加の値を入力または選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Preview Content File URL]: Video Portal がこのビデオ パーツ用のプレビュー イメージとして見せる SWF ファイルまたは非プログレッシブ JPEG ファイル (横 100 ピクセルで縦 75 ピクセル、あるいはこれと同じ縦横比のファイル) のロケーション。ローカル ファイルを選択してアップロードするには、[Upload new preview video file] をクリックします。SWF ファイルを使用する場合は、10 秒後に一時停止してループしないようプログラムすることをお勧めします。 • [{Pre-Event Post-Event} JPEG URL]: JPEG イメージをアップロードして、ライブ イベントの {前 後} に見せます。 • [Enable Questions from the Audience]: {On Off} をクリックして、質問に対するサポートをイネーブルまたはディセーブルにします。 • [Slide Show]: ビデオ ストリームの次に見せるスライドの SWF ファイルまたは ZIP アーカイブを選択します。アップロードした ZIP アーカイブには、PowerPoint (または類似ソフトウェア) からエクスポートした JPEG ファイルが含まれていて、ファイル名のシーケンスが、元の順序を維持できるよう正しく番号付けされていなければなりません。 • [Preview Description]: Video Portal で視聴者に表示される説明テキストですが、160 文字より後ろは切り捨てられます。プレビューの説明を入力していない場合、Video Portal では、代わりにビデオ パーツの説明の先頭 160 文字が表示されます。 • [Keywords]: Video Portal でこのビデオ パーツを検索可能にする説明語。カンマ、セミコロン、その他の単語区切り文字を入力しても、Video Portal に無視されます。 <p>(注) Cisco Video Portal では、プログレッシブ JPEG イメージを表示できません。</p>
☐	<p>3. ライブ イベント用の設定の入力値を保存し、そのためのプログラム一覧表示を次のように表示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. [Save] をクリックします。 b. Video Portal でこのライブ イベントのプログラム一覧表示を見せたい場合は、「新しい配信のスケジュールリング」(P.4-40) の配信の説明を参照してください。

✓	作業
□	<p>4. 次のステップに沿って、ライブ ストリームをテストし、ライブ イベントを開始します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. ライブ イベントの約 30 分前に、[Encoders] タブをクリックします。[Encoder Dashboard] ページが表示されます。 b. エンコーダ選択ツリーで、このライブ イベントに使用するエンコーダを探してから、[Expand Encoder] (🔍) をクリックし、そのエンコーダのアドホック ストリーミング コントロールを表示します。 c. [Encoder Setup] をクリックし、関連する値を入力し、[Start Encoder] をクリックして、開始するまで 10 ~ 20 秒 間待ちます。[Start] ボタンと [Stop] のボタンは、VoD ファイル作成の開始および停止に対応しています。エンコーダの開始や停止は複数回行うことが可能で、カメラ調整や接続テストなどができます。 <p> 注意 エンコーダを開始したり停止したりするたびに、既存のファイルが上書きされます。ファイルを保存するには、次にエンコーダを開始する前にファイル名を変更する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> d. エンコーダのセットアップ メッセージでエンコーダの開始を確認したら、[Close] をクリックします。 e. エンコーダからライブ ストリームを見せるプレビュー ウィンドウをオープンするには、[View Live Video] をクリックします。 ライブ ストリームが表示されたら、ストリーミング サーバはエンコーダからの出力のストリーミングに成功しています。 f. ライブ イベントを開始する用意ができたなら、[Start Broadcast] をクリックします。[Start Broadcast] ボタンを使用すると、Video Portal 上のそのストリームを表示させ、イベント前グラフィックを置き換えることができます。ブロードキャスト開始後約 5 ~ 20 秒で、そのライブ ストリームが、表示を選択した人に対して開始します。 g. イベントを終了する用意ができたなら、[Stop Broadcast] をクリックしてから、[Stop Encoder] をクリックします。[Stop Broadcast] ボタンで、ビデオ ストリームがイベント後グラフィックに置き換わり、[Stop Encoder] ボタンで VoD ファイル作成が停止します。 <p>ヒント ブロードキャストを誤って停止させたり、停止させるのが早すぎたりして、エンコーダがまだ実行中の場合は、[Start Broadcast] をクリックして、そのライブ ストリームの表示を再開します。</p>
□	<p>5. (任意) ライブ ストリームを見逃した視聴者メンバーのために、イベントの録画コピーを、オンデマンド配信用にパブリッシュします。</p>

関連項目

- [プログラム、ビデオ、およびビデオ パーツでの作業 \(P.4-10\)](#)
- [「同期するスライドの生成およびインポート」 \(P.4-20\)](#)
- [オンデマンド配信のスケジューリング \(P.4-44\)](#)
- [DME ライブ イベントのスケジュール時間の修正 \(P.4-54\)](#)

DME ライブ イベントのスケジュール時間の修正

DME ライブ イベント用の既存ビデオ パーツの [Release Date/Time] を修正するには、この手順を使用します。

作業を開始する前に

事前定義ライブ イベントのビデオ パーツを修正する前には、エンコーダを停止します。

手順

- ステップ 1** [Video Portal] > [Programs] を選択します。
- ステップ 2** [Program] を探し、そのライブ イベントの [Active Video Part] まで進みます。
- ステップ 3** ビデオ パーツの名前の横にある [Modify] をクリックします。
- ステップ 4** [Release Date/Time] を変更して、[Save] をクリックします。
- ステップ 5** [Video Portal] > [Deployments] を選択して、そのビデオ パーツの新規の配信をスケジュールします。
- ステップ 6** イベントの 30 分前に、ライブ ストリームをテストします。

関連項目

- [DME 1000 または DME 2000 を使用するライブ イベントのセットアップ \(P.4-52\)](#)

サードパーティのライブ ストリームを使用するライブ イベントのセットアップ

次のチェックリストを使用して、ライブ イベントをセットアップするためにサードパーティのエンコーダからのストリームを使用するのに必要なタスクを示します。

✓	作業
<input type="checkbox"/>	1. 事前定義一覧表示を作成して、次回のイベント オファリングについて視聴者に通知します。
<input type="checkbox"/>	2. 実際のライブ オファリングを表示します。 このビデオ パーツ用にメタデータ属性を設定する [Add New Video Part] ページでは、Cisco Digital Media Encoder 1000 および Digital Media Encoder 2000 と共に使用するために [Live Event] オプションが予約されているため、[Non-DME Live Event] を選択する必要があります。その後、このビデオ パーツを、イベントの開始前に配信する必要があります。Video Portal で [Non-DME Live Event] を視聴可能にするには、そのビデオ パーツのページで [Start] もクリックする必要があります。オフリングには、エンド ユーザがライブ イベント中に使用できる、アジェンダやダウンロード可能な資料などの情報を含んでいなければなりません。 (注) ライブ イベントは、パブリッシュされた開始日時時の 10 ~ 15 分前にスケジュールすることをお勧めします。通常は、イベントに早めに出席したユーザのために、ライブの「保留」音楽を提供し、イベントが間もなく始まることを知らせます。
<input type="checkbox"/>	3. (任意) イベント後一覧表示を作成して、イベントには間に合わなかったこと、およびもう利用できないことを、視聴者に通知します。
<input type="checkbox"/>	4. (任意) ライブ ストリームを見逃した視聴者メンバーのために、イベントの録画コピーを、オンデマンド配信用にパブリッシュします。

関連項目

- [イベント前のリストのスケジュールリング \(P.4-42\)](#)
- [ライブ イベントのスケジュールリング \(P.4-43\)](#)
- [イベント後のリストのスケジュールリング \(P.4-43\)](#)
- [オンデマンド配信のスケジュールリング \(P.4-44\)](#)

■ ライブ イベントのセットアップのワークフロー